

平成 25 年度
親子の会話に関するアンケート調査報告書

宮城の親子の今・・・

ごあいさつ

宮城県 PTA 連合会

会長 佐々木 賢司

『子どもと目を合わせて会話する時間が、どれだけありますか?』

学校での出来事や友だちのことを話す場として夕食時は絶好の会話時間になるはずですが、ライフスタイルの多様化によって、ゆっくりと子どもと会話する時間が取りづらいという方々がいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、子どもたちは忙しい中であっても家庭で話しをしたい、聞いてほしいと願っています。今年度の健全育成委員会は「親子の会話」にスポットを当て、調査をいたしました。

これまでのような携帯電話やメールでのやりとりに留まらず、現在ではリアルタイムのコミュニケーションツールとして LINE（ライン）といったアプリケーションなどが利用されるようになりました。便利である反面、顔が見えないのを良いことに悪口を書き込むことで、いじめに発展する可能性があります。また、感情をスタンプ（イラスト）で表現しますが、相手の本当の気持ちをイラストで察することは出来ません。子どもの感情、心の異変などを感じ取るには、やはり普段の会話、目を見ながら会話することが必須です。何気ない会話の中から気づくこと、得ることがたくさんあるのではないのでしょうか。

ある研修会でこのようなお話がありました。「赤ちゃんの視力は 30 センチ程度。この距離は授乳時のお母さんの顔と赤ちゃんの顔までの距離。授乳させながら笑顔で話しかけることで赤ちゃんの表情は豊かになります。しかし、なかには携帯片手に赤ちゃんの顔を見ないで授乳させるお母さんが実在し、結果として表情がない赤ちゃんが育っている」という事でした。目を見ながら話しかける。それに赤ちゃんが反応する。これこそ親子の会話の原点ではないかと私は考えます。子どもたちの心の成長に親子の会話は欠かせないことが裏付けされたようなものです。文字やイラストで自分を伝えるのではなく、相手の目を見ながら声にして表現することが何より大切なのではないのでしょうか。

今回の調査結果を参考に、親子の会話をもっと楽しいものにする一助になればと思います。

平成 26 年 2 月 28 日

目 次

I 調査の概要	P 1
---------	-----

II 調査結果(児童生徒)

質問 1-1	あなたの事についてお聞きします(性別と学年)	P 3
質問 1-2	あなたと一緒に住んでいる人すべてに○をつけてください	P 3
質問 2	あなたの家族では「おはよう」「ただいま」「おやすみなさい」などのあいさつをしますか	P 4
質問 3-1	平日に、家族と一緒に過ごす時間はどのくらいですか	P 4
質問 3-2	休日に、家族と一緒に過ごす時間はどのくらいですか	P 4
質問 4-1	平日に家族(お父さん・お母さん)と会話する時間はどのくらい?	P 5
質問 4-2	休日に家族(お父さん・お母さん)と会話する時間はどのくらい?	P 5
質問 5	あなたが、お父さん・お母さんなど家族の人とよく話す話題は、どんなことですか?	P 5
質問 6	あなたは、お父さん・お母さんなど家族の人とお話をする時間は楽しいですか?	P 6
質問 7	あなたの家族は、みんなよく会話しますか?	P 6
質問 8	学校の出来事をお父さんお母さん家族の人から聞かれますか?	P 7
質問 9	家族の思い出で一番心に残っているのはどんなことですか?	P 7
質問 10	いつも、あなたのお父さんやお母さんは、あなたの話を聞いてくれますか?	P 8
質問 11	話をよく聞いてもらったと思うときはどんな時ですか?	P 8
質問 12	あなたが忙しそうにしている家族に話しかけた時家族の人は話を聞いてくれましたか	P 8
質問 13	その時あなたの気持ちはどうでしたか?	P 9
質問 14-1	あなたにはお父さんお母さん以外によく話を聞いてくれる大人がいますか?	P 9
質問 14-2	話を聞いてくれる方はどなたですか	P 9
質問 15	あなたは、どんな人に話を聞いてほしいですか	P 10
質問 16	あなたの家族で「いじめ」についてどれくらい話し合いますか	P 10

III 調査結果(保護者)

質問 1-1	あなたのお子さんについてお聞きします	P 11
質問 1-2	あなたとお子さんとの関係についてお聞きします	P 11
質問 2	あなたの家族では「おはよう」「ただいま」「おやすみなさい」などのあいさつをしますか	P 12
質問 3-1	平日にお子さんと一緒に過ごされているときの平均的な時間をお聞かせください	P 12
質問 3-2	休日にお子さんと一緒に過ごされているときの平均的な時間をお聞かせください	P 12
質問 4-1	平日のお子さんとの会話についてお聞きします。一日どの位話しますか?	P 13
質問 4-2	休日のお子さんとの会話についてお聞きします。一日どの位話しますか?	P 13
質問 5	お子さんがあなたと話す話題は、どんなことですか?	P 13

質問 6	お子さんと話をする時間は、楽しいですか？	・・・ P14
質問 7	お子さんから話しかけられる機会が多いと思いますか？	・・・ P14
質問 8	あなたから進んでお子さんの話を聞いていますか？	・・・ P14
質問 9	お子さんは「あなたに話をしっかり聞いてもらっている」と思っている、と思いますか？	・・・ P15
質問 10	あなたが忙しいときお子さんが話しかけてきました。あなたはどうしていますか？	・ P15
質問 11	その時話しかけてきた子どもの表情は、あなたの態度でどう変わりましたか？	・・・ P15
質問 12	お子さんの話を聞くときに気をつけていることを教えてください	・・・ P16
質問 13-1	あなたの子育てについて、よく話を聞いてくれる人はいますか？	・・・ P16
質問 13-2	話を聞いてくれる方はどなたですか？	・・・ P16
質問 14	あなたは、どんな人に話を聞いてほしいですか？	・・・ P17
質問 15	あなたの家族で「いじめ」についてどれくらい話し合いますか？	・・・ P17

IV	調査結果（自由記述）	・・・ P18～P22
V	まとめ（提言）	・・・ P23
VI	資料編	・・・ P24～P27
VII	あとがき	・・・ P29

I 調査の概要

1 目的・趣旨

急速な社会の変化により、「経済格差と教育格差」「自子己中心（自分の子どもだけに目を向ける親の姿）」「教育放棄・虐待」など家庭を取り巻く環境が大きく変化している中、平成 25 年度宮城県 PTA 連合会健全育成委員会では、教育の原点である家庭の教育力の状況を「親子の会話」に焦点を当てて調査することになりました。

この調査は、これまでの「食習慣」「パソコン・インターネット使用」昨年の「携帯電話フィルタリング」調査と同様に、県内の子を持つ親の意識と実態を調査し宮城県の児童生徒の健全育成に資するものです。

親子の会話の時間や内容・充足度等について、親の思い、子の感じ方、認識の違いなどを探りながら、宮城の親子の「今」を知ることで改めて親子の会話・コミュニケーションの大切さに気付き、「いじめゼロ宣言」の一助となることを目的とします。

2 調査の対象

宮城県内の小学 5 年生と中学 2 年生、およびその保護者を対象としました。

宮城県を北部沿岸部、南部沿岸部、北部山沿い、南部山沿いの 4 ブロックに分け、各ブロックから小中学校を 1 校ずつ抽出。小学校 4 校、中学校 4 校に調査を依頼しました。

調査対象	配布数	有効回収数	回収率
小学 5 年生 児童	298	280	94.0 %
中学 2 年生 生徒	295	241	81.7 %
小学 5 年生 保護者	270	245	90.7 %
中学 2 年生 保護者	268	223	83.2 %
合 計	1,131 枚	989 枚	87.4 %

<内 訳>

児童生徒

(単位：人)

区 分	小学 5 年生	中学 2 年生
北部沿岸部	50	48
南部沿岸部	104	60
北部山沿い	64	114
南部山沿い	62	19
小 計	280	241
全 体	521	

保護者

(単位：人)

区 分	小学 5 年生	中学 2 年生
北部沿岸部	50	34
南部沿岸部	86	59
北部山沿い	64	111
南部山沿い	45	19
小 計	245	223
全 体	468	

3 調査の内容

- 1 属性（居住地 性別 年齢 学年 家族構成）
- 2 会話の時間
- 3 会話の話題・内容
- 4 会話の環境
- 5 会話の機会・認識・感情
- 6 会話への期待
- 7 会話と生活習慣
- 8 自由記述

4 調査期間

平成 25 年 10 月 21 日 ～ 平成 25 年 11 月 8 日

5 調査の方法

質問紙法（アンケート記述式）

平成 25 年 10 月 15 日 ～ 平成 25 年 10 月 18 日 調査協力校に配布

平成 25 年 11 月 10 日 回収

平成 25 年 11 月 18 日 ～ 平成 25 年 12 月 13 日 集計・検証・編集（報告書作成）

平成 26 年 2 月 28 日 報告書発行（県内小中学校 PTA、関係機関へ送付）

6 調査の参考にした先行調査・資料

2000 年 内閣府「日本の青少年の意識に関する基本調査」

2004 年 ベネッセ調査「中学生にとっての家族」

2009 年 広島県教育委員会「親子のコミュニケーション」に関する調査

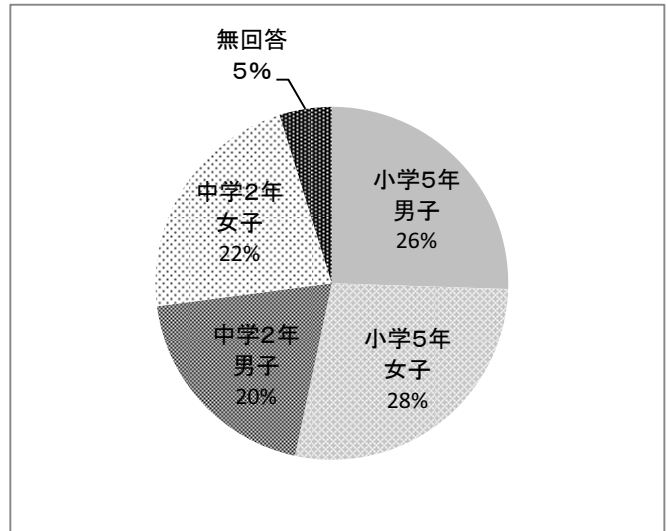
2012 年 シチズン意識調査「親子のふれあい時間」

Ⅱ 調査結果(児童生徒)

質問1-1 性別と学年

(単位:人)

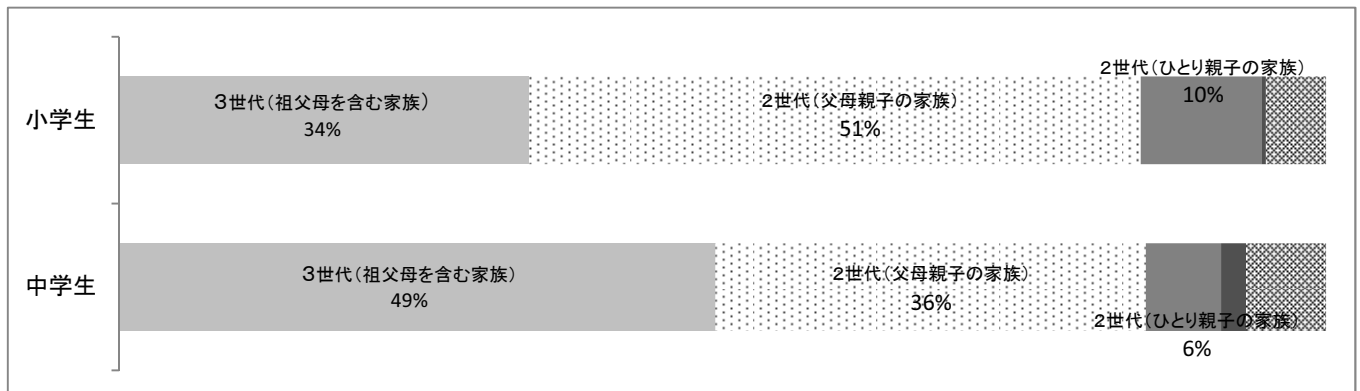
小学5年男子	133
小学5年女子	145
中学2年男子	102
中学2年女子	116
無回答	25
合計	521



質問1-2 家族構成

(単位:人)

	全体	小学生	中学生
3世代(祖父母を含む家族)	214	95	119
2世代(父母親子の家族)	228	142	86
2世代(ひとり親子の家族)	43	28	15
その他	6	1	5
無回答	30	14	16
合計	521	280	241



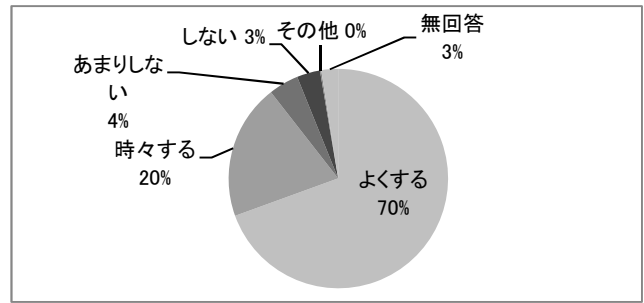
傾向と考案

祖父母を含む3世代の家族が小学生では34%で、中学生になると過半数になっています。小学生では、1人親家族が10%ですが、中学校では6%になっています。

質問2 あなたの家族では「おはよう」「ただいま」「おやすみなさい」などのあいさつをしますか？

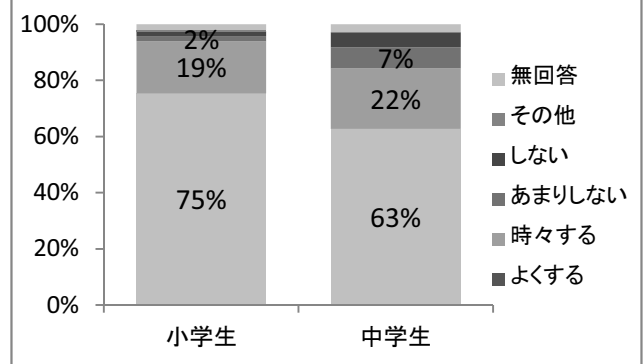
(単位:人)

	全体	小学生	中学生
よくする	362	211	151
時々する	104	52	52
あまりしない	23	5	18
しない	18	5	13
その他	1	1	0
無回答	13	6	7
合計	521	280	241



傾向と考案

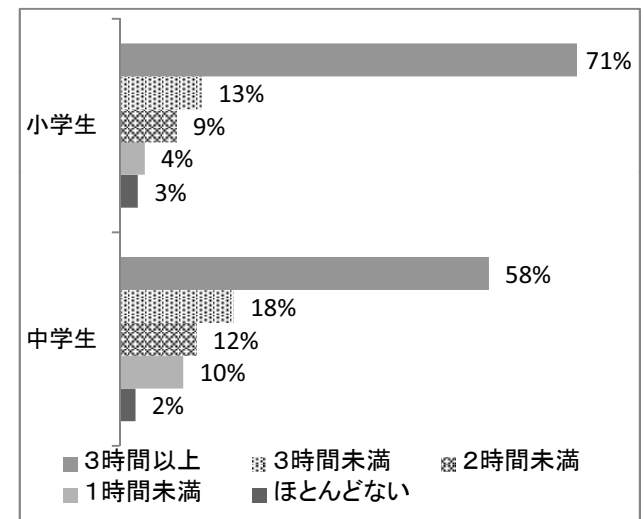
あいさつは、約90%の児童生徒がしています。ただし、中学生になると少なくなる傾向が見られます。



質問3-1 平日に、家族と一緒に過ごす時間はどのくらいですか？

(単位:人)

	全体	小学生	中学生
3時間以上	339	200	139
3時間未満	79	36	43
2時間未満	54	25	29
1時間未満	35	11	24
ほとんどない	14	8	6
合計	521	280	241



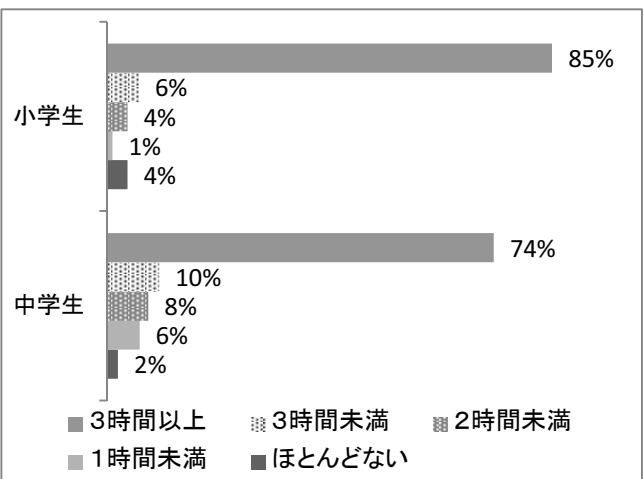
傾向と考案

平日家族と過ごす時間が3時間以上は65%、それに対して1時間未満の児童生徒は10%います。保護者の仕事などにより異なることは当然ですが、家族と一緒に過ごす時間を大切にしたいものです。

質問3-2 休日に、家族と一緒に過ごす時間はどのくらいですか？

(単位:人)

	全体	小学生	中学生
3時間以上	416	238	178
3時間未満	41	17	24
2時間未満	30	11	19
1時間未満	18	3	15
ほとんどない	16	11	5
合計	521	280	241



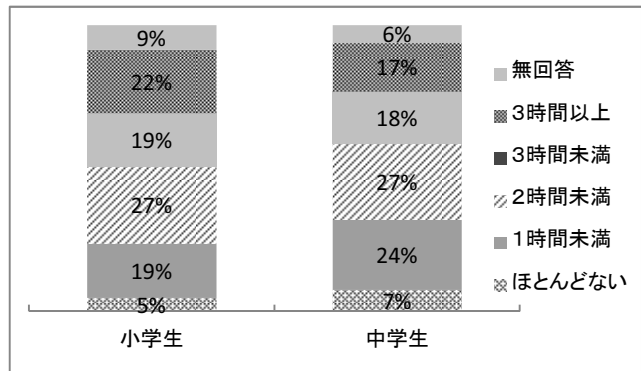
傾向と考案

休日は家族で過ごす時間を十分に確保したいところですが、中学生になると部活動や塾などでまとまって取ることが難しくなっているようです。

質問4-1 平日に、家族(お父さん・お母さん)と会話する時間はどのくらい？

(単位:人)

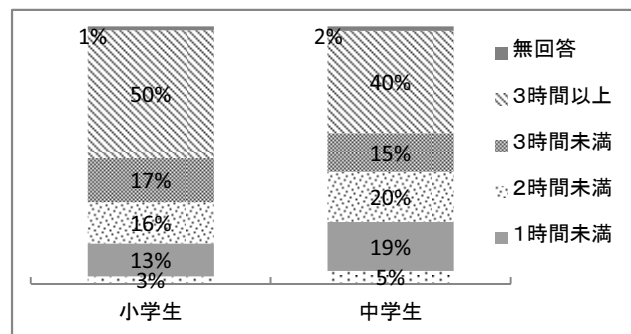
	全体	小学生	中学生
ほとんどない	31	13	18
1時間未満	112	53	59
2時間未満	140	76	64
3時間未満	96	52	44
3時間以上	103	62	41
無回答	39	24	15
合計	521	280	241



質問4-2 休日に、家族(お父さん・お母さん)と会話する時間はどのくらい？

(単位:人)

	全体	小学生	中学生
ほとんどない	20	8	12
1時間未満	82	36	46
2時間未満	92	45	47
3時間未満	84	48	36
3時間以上	235	139	96
無回答	8	4	4
合計	521	280	241



傾向と考案

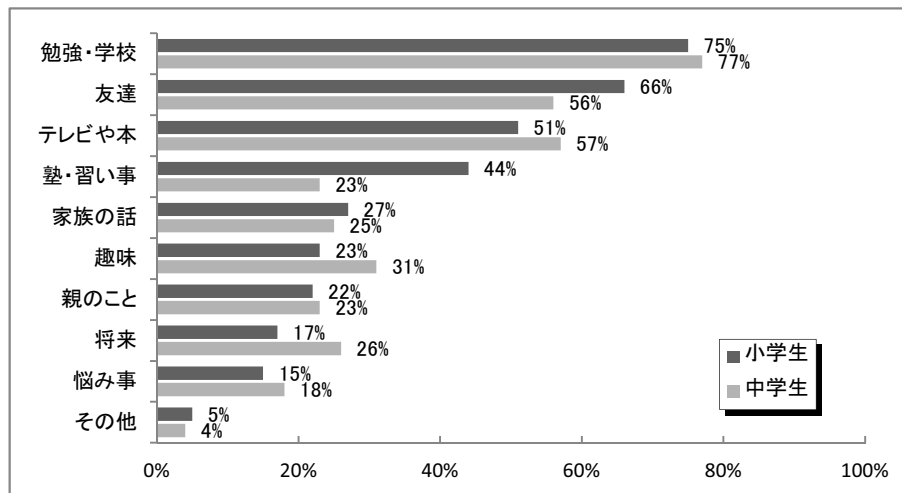
平日で65%、休日では79%の児童生徒が家族と会話をしています。しかし、休日に会話する時間が1時間未満の中学生は24%もいます。

各家庭で問題意識をもって工夫改善していきたいものです。

質問5 あなたが、お父さん、お母さんなど家族の人と話す話題は、どんなことですか？(複数回答)

(単位:人)

	中学生
勉強・学校	396
友達	321
テレビや本	281
塾・習い事	177
趣味	138
親の仕事や昔話	116
家族の話	135
将来	110
悩み事や心配事	84
その他	22
合計	1,780



傾向と考案

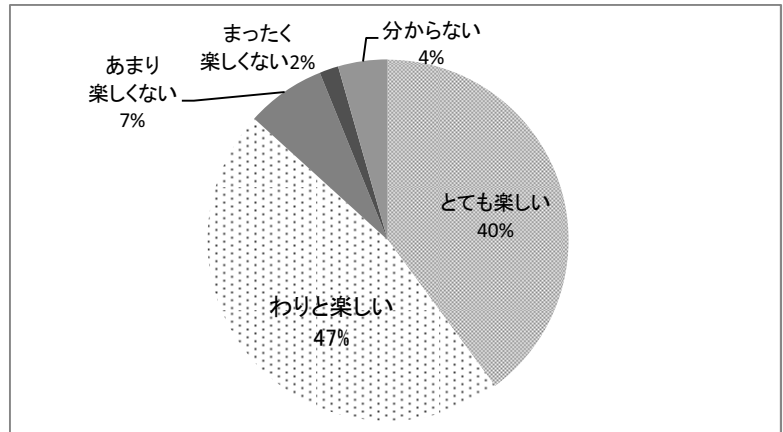
話題は「勉強・学校の話」「友達の話」「テレビや本の話」が上位3位になっており、子どもの「今」を大事に話しています。

中学生になると将来のことや進路の悩みなどが増える傾向が見られます。

質問6 あなたは、お父さん・お母さんなどの家族とお話する時間は、楽しいですか？

(単位:人)

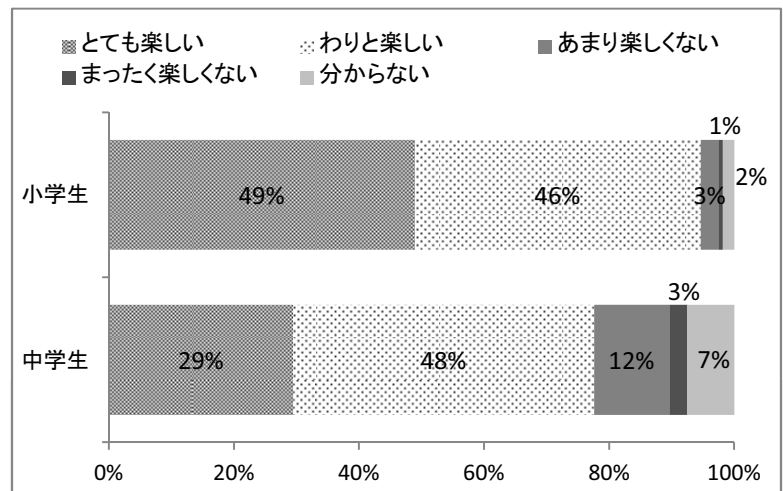
	全体	小学生	中学生
とても楽しい	208	137	71
わりと楽しい	244	128	116
あまり楽しくない	37	8	29
まったく楽しくない	9	2	7
分からない	23	5	18
合計	521	280	241



傾向と考案

全体では40%が「とても楽しい」と答え「わりと楽しい」と合わせると87%となります。

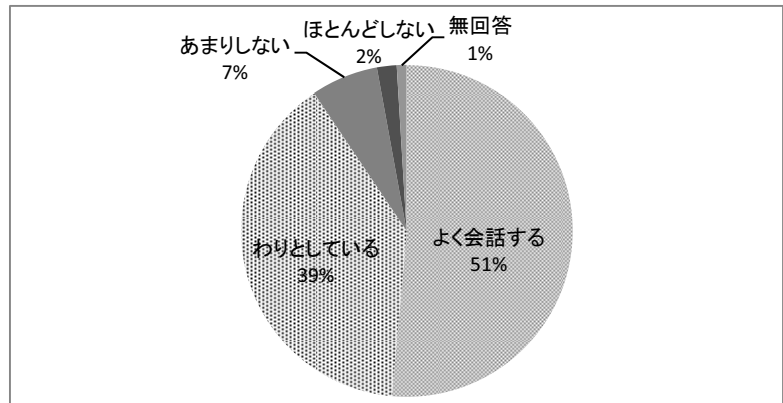
家族の会話が楽しいと感じている小中学生がほとんどですが、中学生は「楽しくない」「あまり楽しくない」という回答が16%あり、思春期の特徴が見られます。



質問7 あなたの家族は、みんなよく会話しますか？

(単位:人)

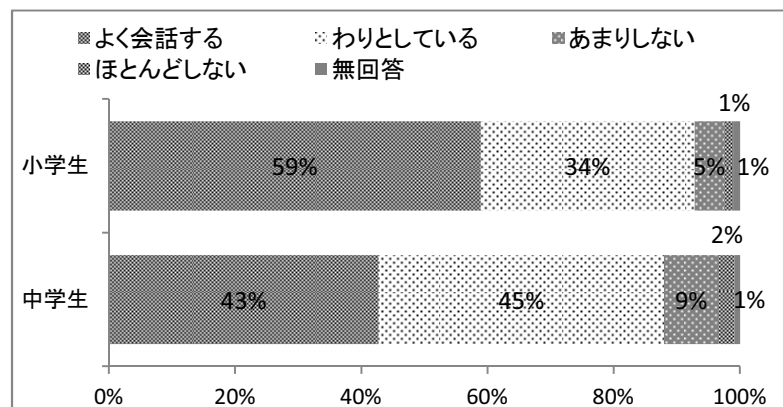
	全体	小学生	中学生
よく会話する	268	165	103
わりとしている	204	95	109
あまりしない	34	13	21
ほとんどしない	10	4	6
無回答	5	3	2
合計	521	280	241



傾向と考案

全体の90%が「会話している」と答えています。

一方で「あまりしない」「ほとんどしない」と答えていたのは小学生で6%、中学生で12%でした。



質問8 学校の出来事をお父さん・お母さんなど家族の人から聞かれますか？

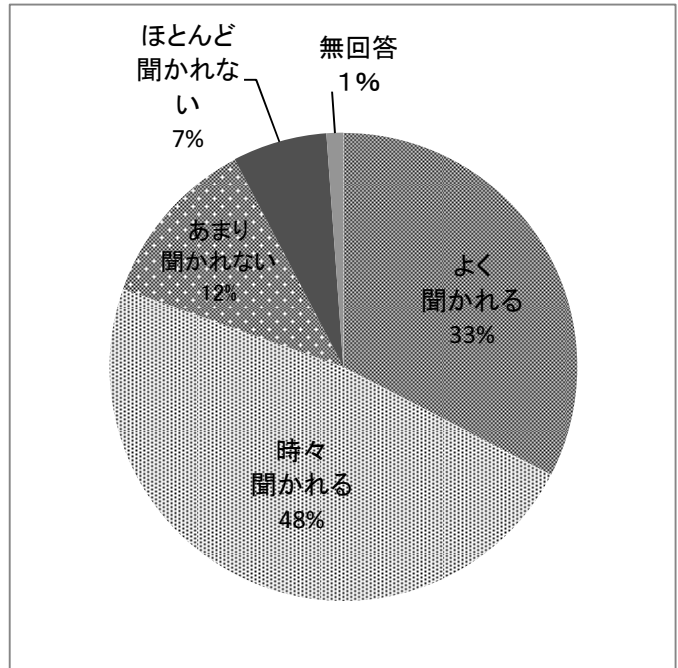
(単位:人)

よく聞かれる	170
時々聞かれる	249
あまり聞かれない	62
ほとんど聞かれない	34
無回答	6
	521

傾向と考案

全体では、家族から学校のことを「時々聞かれる」「聞かれる」が圧倒的に多く81%を占めています。

小学生、中学生、地域を問わず、同様の結果が出ていることから、子どもの成長段階にあつては、保護者は学校のことに関心を寄せ、子どもが学校でどのように過ごしているのか気にかけている様子がうかがえます。



質問9 家族の思い出で一番心に残っていることはどんなことですか？(複数回答)

(単位:人)

	全体	小学生	中学生
旅行など家族のイベント	378	228	150
季節の行事	249	149	100
ほめられたこと	167	104	63
食事など普段の生活	127	72	55
怒られたこと	118	53	65
特に思い出はない	31	10	21
認められたこと	28	23	5
その他	12	4	8

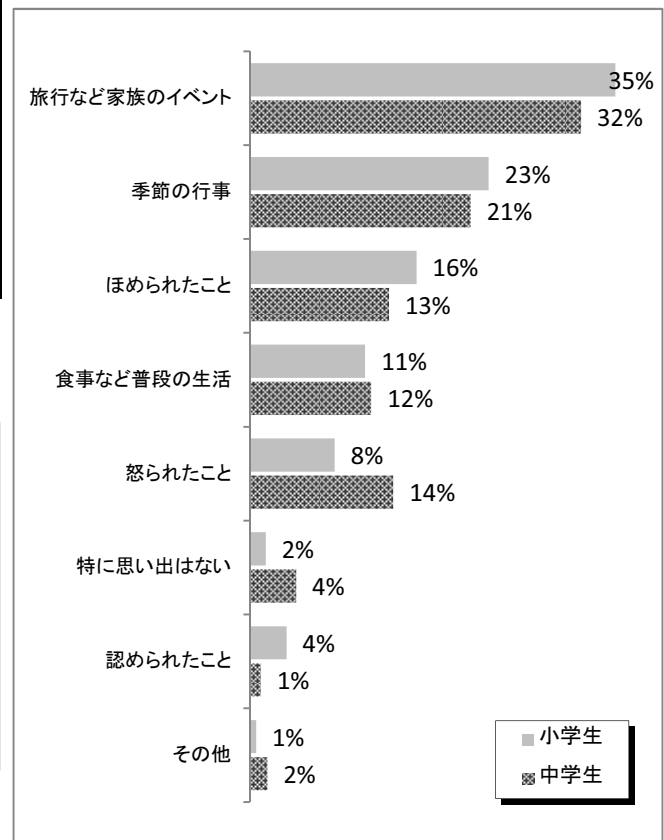
傾向と考案

「旅行や誕生日など家族のイベント」が、小学生35%、中学生でも32%と最も多くなっています。

「怒られたこと」が中学生が14%と小学生の8%を上回っています。

小学生も中学生も旅行やイベント、正月やお祭りなど特別な行事が心に残っています。

誕生日やお祭りなど家族や親族、地域の人たちとのつながり、一緒に過ごした時間が心に残っているようです。



質問10 いつもあなたのお父さんやお母さんは、あなたの話を聞いてくれますか？

(単位:人)

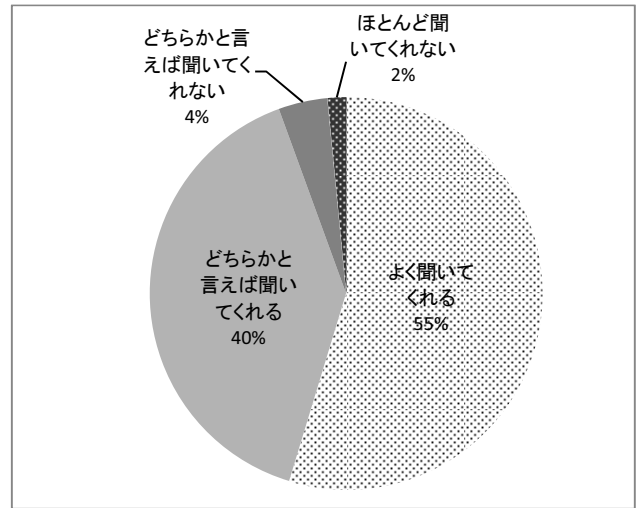
よく聞いてくれる	285
どちらかと言えば聞いてくれる	207
どちらかと言えば聞いてくれない	21
ほとんど聞いてくれない	8
計	521

傾向と考案

「よく聞いてくれる」が55%、「どちらかと言えば聞いてくれる」が40%、合計95%の子どもが、お父さん・お母さんが話を聞いてくれていると思っています。

宮城の親子の会話は「よく話し、よく聞いている」といえるでしょう。

今後も親子の会話を意識して欲しいと思います。



質問11 話をよく聞いてもらったと思うときはどんな時ですか？(複数回答)

(単位:人)

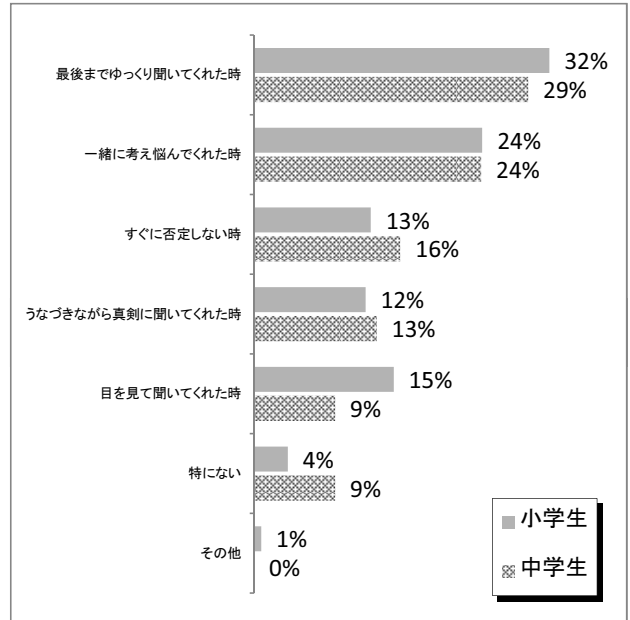
	全体	小学生	中学生
最後までゆっくり聞いてくれた時	272	167	105
一緒に考え悩んでくれた時	216	129	87
すぐに否定しない時	122	66	56
うなづきながら真剣に聞いてくれた時	110	63	47
目を見て聞いてくれた時	110	79	31
特にない	50	19	31
その他	4	4	0

傾向と考案

「最後までゆっくり聞いてくれた時」が一番話を聞いてもらったと感じています。

また、「一緒に考え悩んでくれた時」が41%と次に多くなっています。

話を聞いてもらう相手に一番望んでいることは「会話の基本」でした。これらは心を開く安心感・信頼などコミュニケーションの原点と思われます。



質問12 あなたが、忙しそうにしている家族に話しかけた時、家族の人は話を聞いてくれますか？

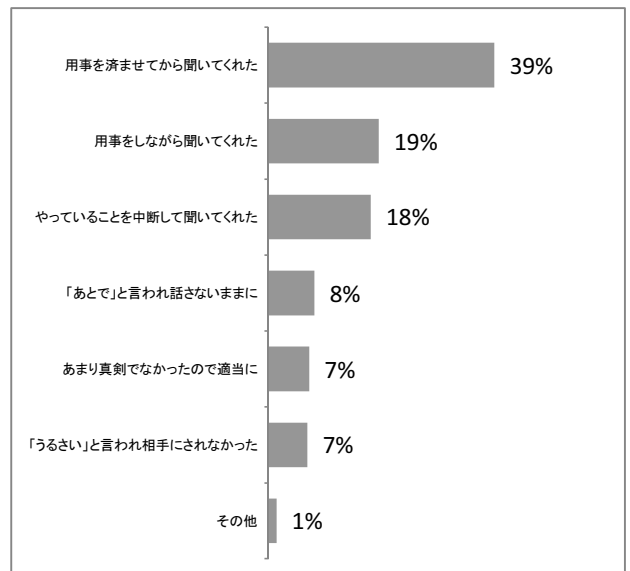
(単位:人)

用事を済ませてから聞いてくれた	221
用事をしながら聞いてくれた	108
やっていることを中断して聞いてくれた	100
「あとで」と言われ話さないままに	45
あまり真剣でなかったので適当に	40
「うるさい」と言われ相手にされなかった	38
その他	8

傾向と考案

「用事を済ませてから・・・」が42%、「用事をしながら・・・」「やっていることを中断して・・・」が、その半分の割合で続いています。

家族が忙しそうにしている時、子どもは聞いてもらえると思って話しかけています。



質問13 その時のあなたの気持ちはどうでしたか？

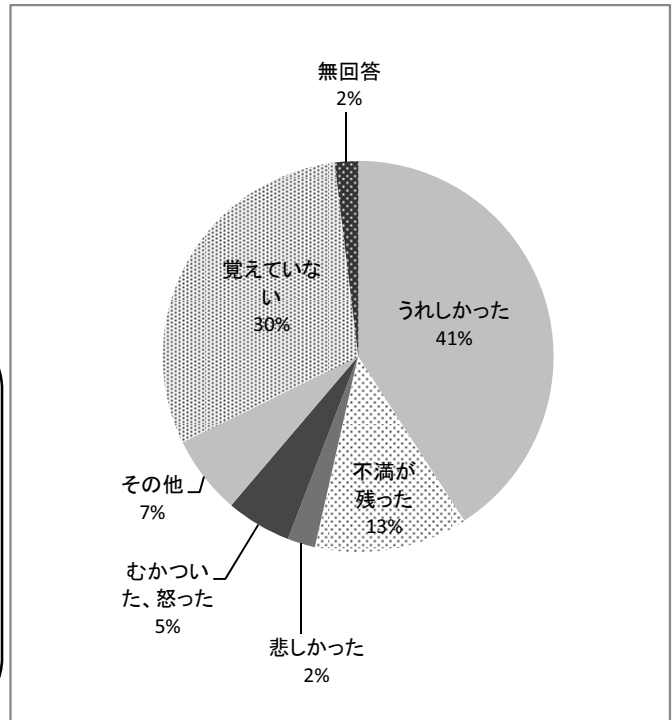
(単位:人)

うれしかった	213
不満が残った	66
悲しかった	12
むかついた、怒った	28
その他	34
覚えていない	158
無回答	10
合計	521

傾向と考案

子どもは、何らかの方法で保護者が話を聞いてくれたと思っています。ただし、「嬉しかった」と満足している子は41%でした。「不満が残った」という答えの中には前問で「用事をしながら聞いてくれた」と答えている子どももいました。

親子の会話は、「できるだけ用事を済ませて」「最後までゆっくり」「一緒に考えて」聞いてあげることが大事だと思われます。



質問14-1 あなたは家族以外によく話を聞いてくれる大人はいますか？

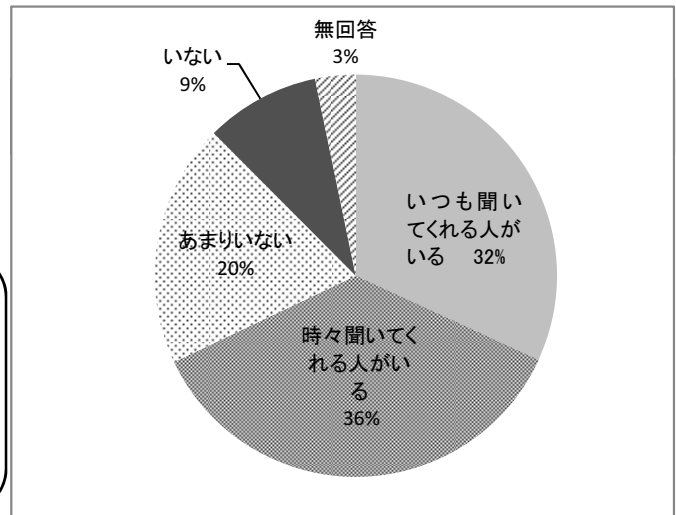
(単位:人)

いつも聞いてくれる人がいる	166
時々聞いてくれる人がいる	188
あまりいない	102
いない	48
無回答	17
合計	521

傾向と考案

家族以外で話を聞いてくれる大人が約70%の子どもにいますが、中学生で41%の子どもが「あまりいない・いない」と答えています。

話ができる「隣のおばちゃん、近所のおばちゃん」がもっと増えるとよいと思います。



質問14-2 話を聞いてくれる方はどなたですか？

(単位:人)

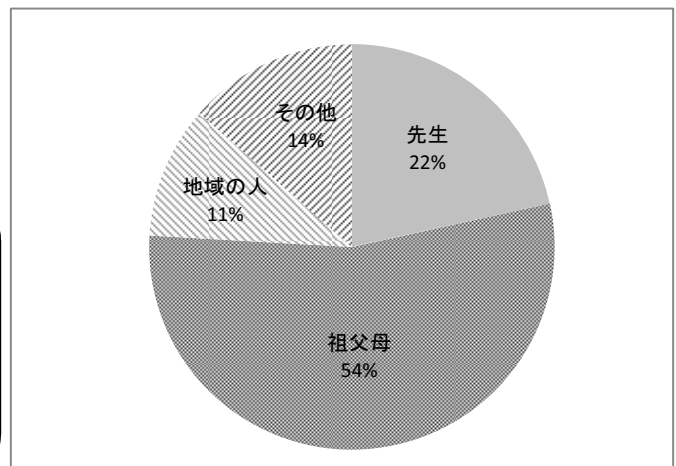
先生	102
祖父母	257
地域の人	50
その他	64

傾向と考案

全体として、おじいさん、おばあさんと話をしている子どもが過半数を超えます。

先生が22%、近所の大人が11%。

その他には友だち、兄弟姉妹のほかに、スポーツ少年団の指導者や習い事の先生などがあげられました。



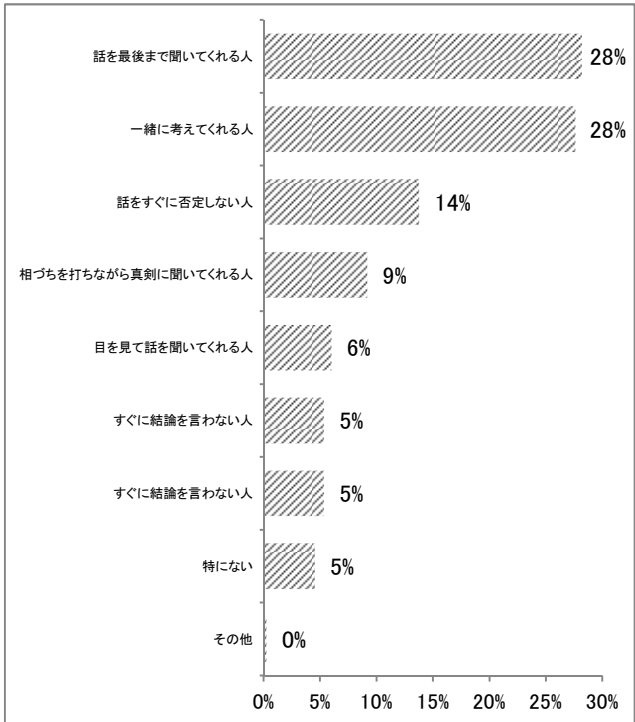
質問15 あなたはどんな人に話を聞いて欲しいですか？(複数回答)

(単位:人)

話を最後まで聞いてくれる人	344
一緒に考えてくれる人	337
話をすぐに否定しない人	168
相づちを打ちながら真剣に聞いてくれる人	112
目を見て話を聞いてくれる人	73
すぐに結論を言わない人	65
特にない	55
その他	3

傾向と考案

子ども達がお父さん・お母さん・家族の人に「どのように話をきいてほしいか」を示しています。
 「最後まで・一緒に考えて・結論を急がない」で聞いてあげることが親子の対話をより良くしていくためのキーワードかもしれません。



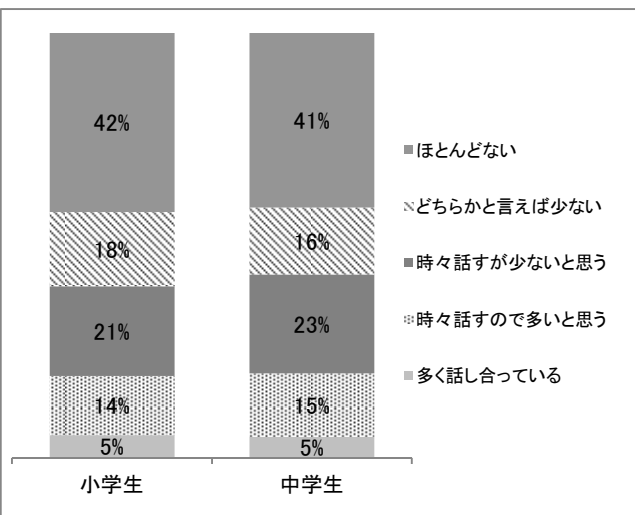
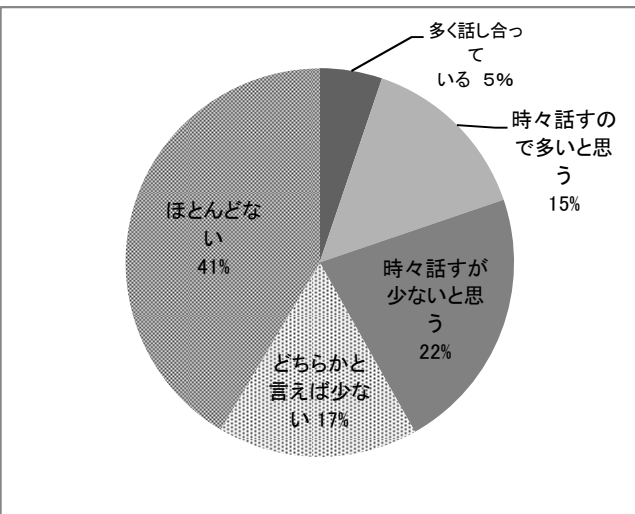
質問16 あなたは、家族で「いじめ」についてどれくらい話し合いますか？

(単位:人)

	全体	小学生	中学生
多く話し合っている	27	15	12
時々話すので多いと思う	76	39	36
時々話すが少ないと思う	115	59	56
どちらかと言えば少ない	87	49	38
ほとんどない	216	118	99
合計	521	280	241

傾向と考案

子ども達の40%が家族と「いじめ」について「ほとんど話さない」と答えています。
 「少ない」と思っている子どもを含めると8割の子ども達が「いじめ」についての会話が少なく思っているようです。
 親として「いじめ」を他人ごととせず、日頃から注意深く話し合っておくことが大切ではないでしょうか。



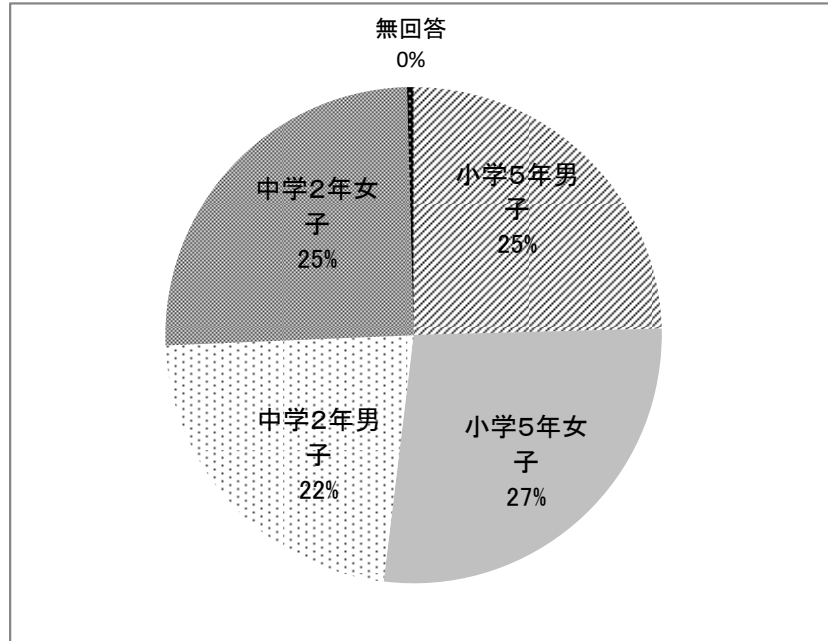
Ⅲ

調査結果(保護者)

質問1-1 あなたのお子さんの事についてお聞きします。

(単位:人)

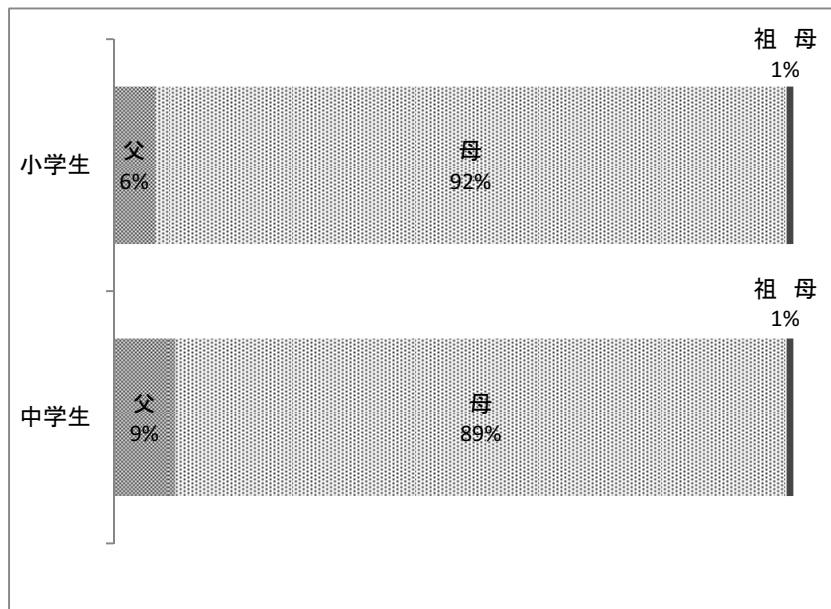
小学5年男子	115
小学5年女子	128
中学2年男子	105
中学2年女子	118
無回答	2
合計	468



質問1-2 あなたとお子さんとの関係についてお聞きします。

(単位:人)

父	34
母	423
祖父	0
祖母	5
その他	1
無回答	5
合計	468



傾向と考案

今回のアンケート調査では全体の91%を主にお母さんから回答をいただきました。

質問2 あなたの家族では「おはよう」「ただいま」「おやすみなさい」などのあいさつをしますか？

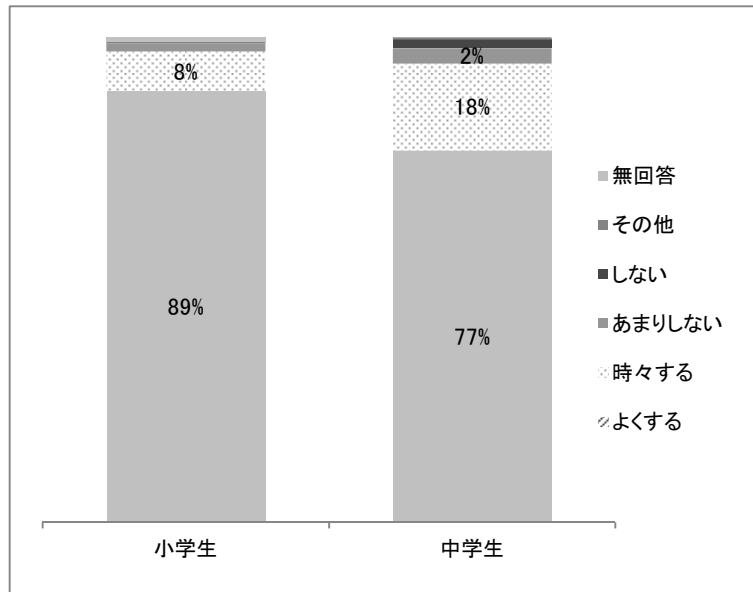
(単位:人)

	全体	小学生	中学生
よくする	389	218	171
時々する	60	20	40
あまりしない	11	4	7
しない	4	0	4
その他	2	1	1
無回答	2	2	0
合計	468	245	223

傾向と考案

あいさつは、小学生に高い傾向が見られるものの、中学生になると家族の中のあいさつが少なくなります。

家庭の中では、親が積極的に話しかけ、生活様子を知る上でも「あいさつ」や会話を大事にしていきたいものです。



質問3-1 平日にお子さんと一緒に過ごされているときの平均的な時間をお聞かせ下さい。

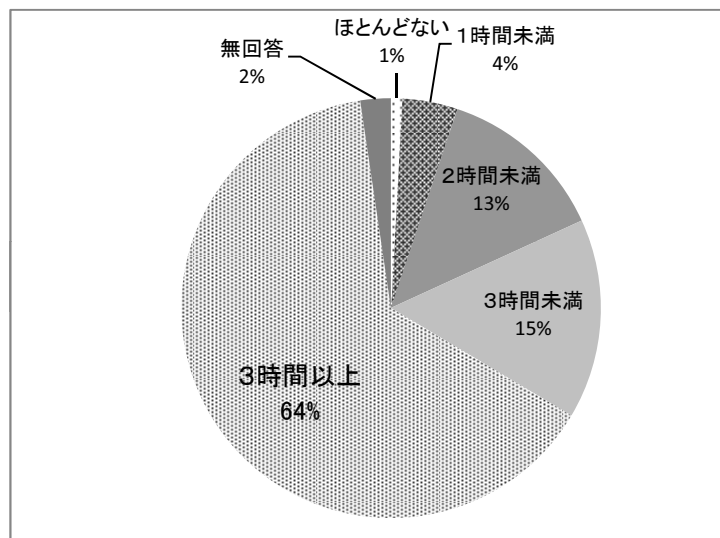
(単位:人)

ほとんどない	4
1時間未満	20
2時間未満	61
3時間未満	72
3時間以上	300
無回答	11
合計	468

傾向と考案

平日、子どもと家族が過ごす時間が3時間以上の家族が64%です。1時間未満の家族が5%あります。

児童生徒へのアンケートでも同様の傾向が見られましたが、家族と一緒に過ごす時間を大切にしたいものです。



質問3-2 休日にお子さんと一緒に過ごされているときの平均的な時間をお聞かせください。

(単位:人)

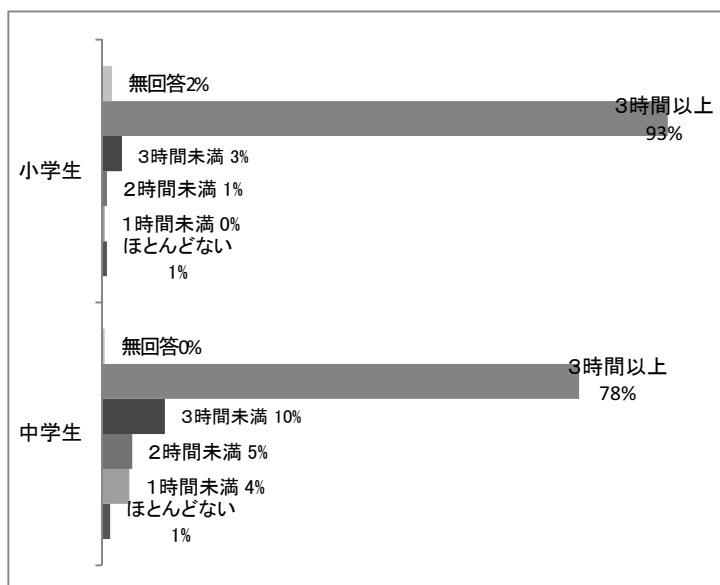
	全体	小学生	中学生
ほとんどない	5	2	3
1時間未満	11	1	10
2時間未満	13	2	11
3時間未満	31	8	23
3時間以上	403	228	175
無回答	5	4	1
合計	468	245	223

傾向と考案

休日に家族と過ごす時間が3時間以上の家族が約80%です。

中学生の保護者で1時間未満が4%います。

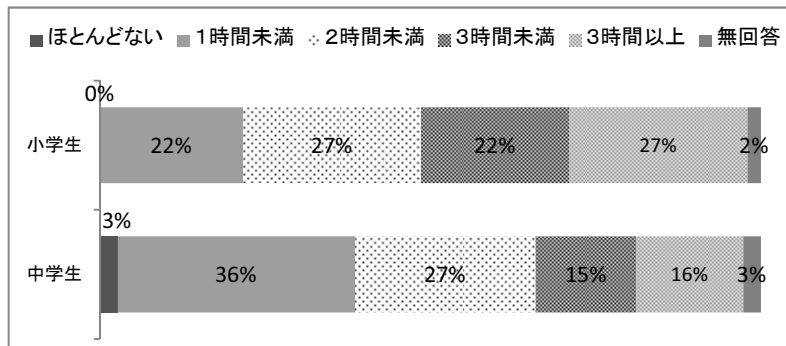
中学生になると、部活動や塾などで家族と過ごすためのまとまった時間を取ることが難しくなっています。



質問4-1 平日のお子さんとの会話についてお聞きします。一日どの位話しますか？

(単位:人)

	全体	小学生	中学生
ほとんどない	6	0	6
1時間未満	133	53	80
2時間未満	127	66	61
3時間未満	89	55	34
3時間以上	102	66	36
無回答	11	5	6
合計	468	245	223

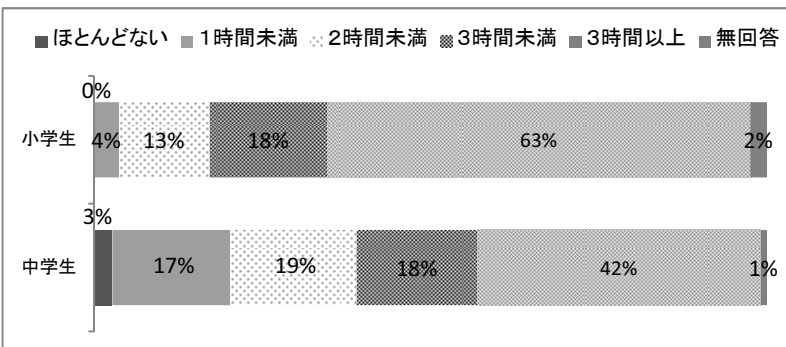


質問4-2 休日のお子さんとの会話についてお聞きします。

一日どの位話しますか？

(単位:人)

	全体	小学生	中学生
ほとんどない	6	0	6
1時間未満	48	9	39
2時間未満	75	33	42
3時間未満	83	43	40
3時間以上	248	154	94
無回答	8	6	2
合計	468	245	223



傾向と考案

同じ質問を児童生徒へもしています。「ほとんどない」と答えた児童生徒が5%だったのに対し、保護者は1%でした。一方、「3時間以上」と答えた人の割合は保護者の方が高いという結果でした。このあたりに少し親子の意識の違いが見えるようです。

質問5 お子さんがあなたと話す話題は、どんなことですか？(複数回答可)

(単位:人)

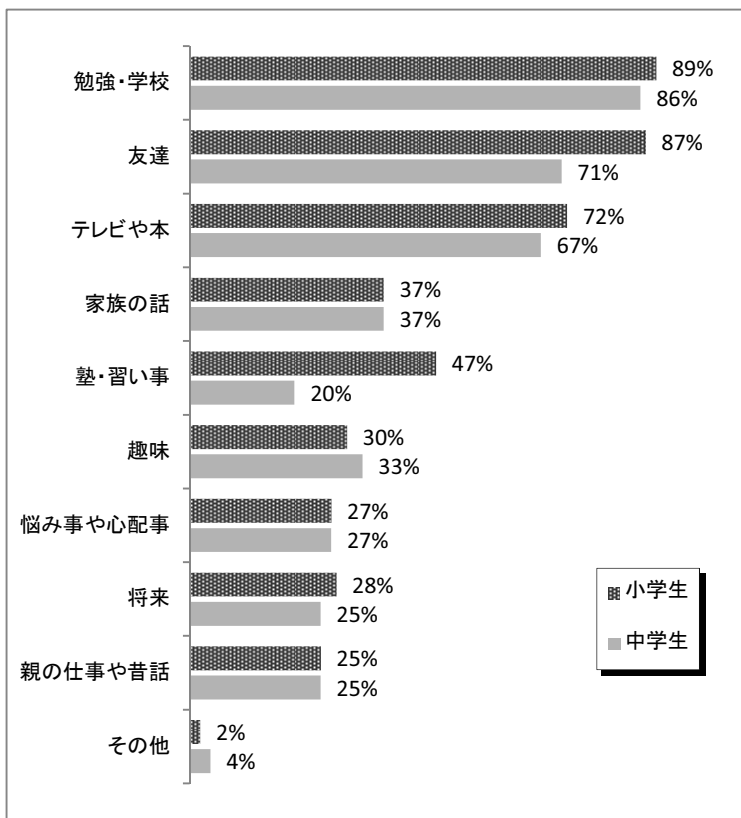
勉強・学校	410
友達	371
テレビや本	324
塾・習い事	157
趣味	147
親の仕事や昔話	116
家族の話	173
将来	125
悩み事や心配事	127
その他	15
合計	1,965

その他の内容

- ・親から話しかけないと自分からは話さない
- ・ほとんど何でも話す
- ・部活 ・スポーツ(野球、サッカー、バドミントン)
- ・面白話 ・ペットの話 ・体について

傾向と考案

親子の会話のほとんどは「勉強・学校」「友達」「テレビや本」の話題が中心で、「悩み事や心配事」「将来」については比較的少数のようです。



質問6 お子さんと話しをする時間は、楽しいですか？

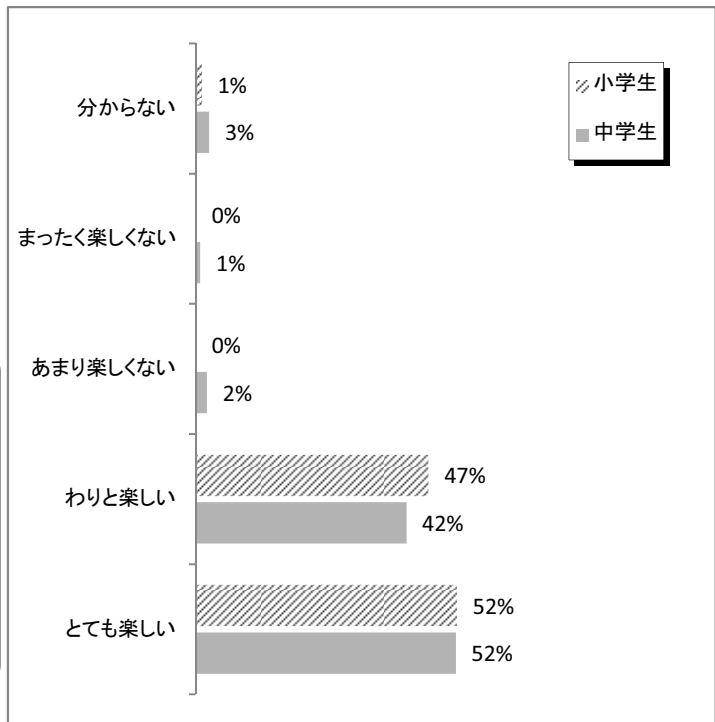
(単位:人)

	全体	小学生	中学生
とても楽しい	244	128	116
わりと楽しい	208	114	94
あまり楽しくない	5	0	5
まったく楽しくない	2	0	2
分からない	9	3	6
合計	468	245	223

傾向と考案

親として子どもとの会話が「楽しい」と感じている保護者がほとんどでしたが、「楽しくない」「あまり楽しくない」と答えた保護者が中学生では3%とわずかですが見られます。

中学生になって友人や仲間との会話の方が楽しくなっていくことは思春期の特徴ですが、親としてはさびしさも感じる場所です。



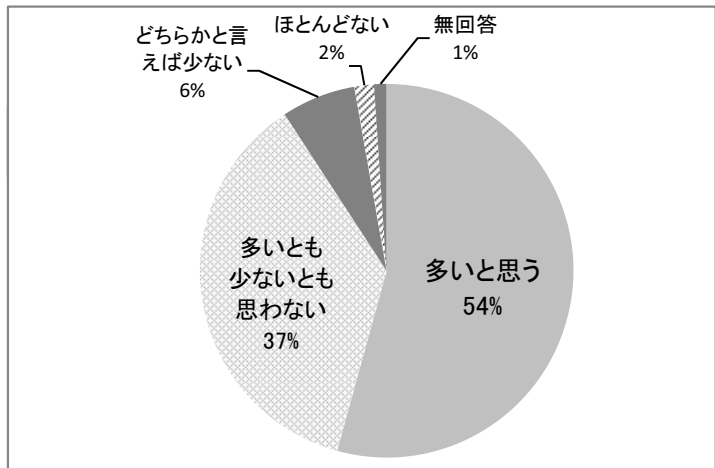
質問7 お子さんから話かけられる機会が多いと思いますか？

(単位:人)

多いと思う	254
多いとも少ないとも思わない	171
どちらかと言えば少ない	30
ほとんどない	8
無回答	5
合計	468

傾向と考案

9割以上の保護者が子どもから話かけられると感じていますが、中学生では4%の親が子どもから話かけられることがほとんどないと答えていました。



質問8 あなたから進んでお子さんの話を聞いていますか？

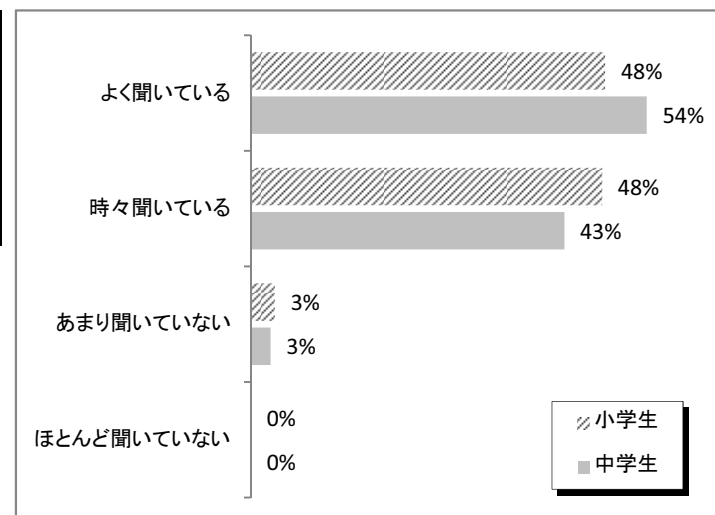
(単位:人)

	全体	小学生	中学生
よく聞いている	238	118	120
時々聞いている	212	117	95
あまり聞いていない	14	8	6
ほとんど聞いていない	0	0	0
無回答	4	2	2
合計	468	245	223

傾向と考案

ほとんどの保護者が子どもの話を時々、または毎日のように聞いています。

児童生徒のアンケートと照らし合わせても、宮城では親子相互の会話がほとんどの家庭でなされていると思われます。



質問9 お子さんは「あなたに話をしっかり聞いてもらっている」と思っている、と思いますか？

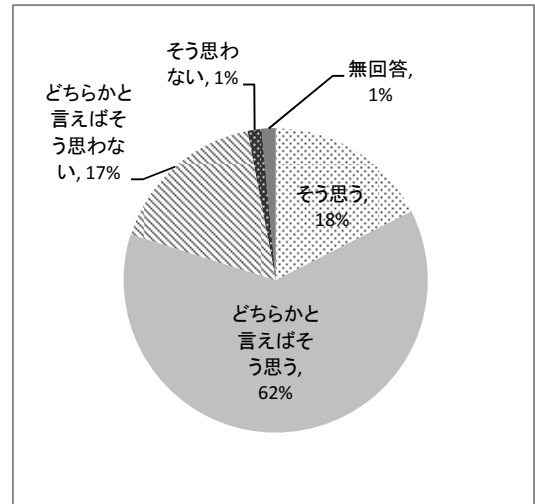
(単位:人)

そう思う	82
どちらかと言えばそう思う	292
どちらかと言えばそう思わない	80
そう思わない	7
無回答	7
合計	468

傾向と考案

「話を聞いてもらっている」と思っているが80%。「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が18%です。児童生徒への質問10に対照すると、子どもは全体の95%が「よく聞いてくれる」と答えています。

保護者をもっと自信をもって積極的に話しかけ、会話自体に工夫しながら子どもの話を聞いてあげましょう。



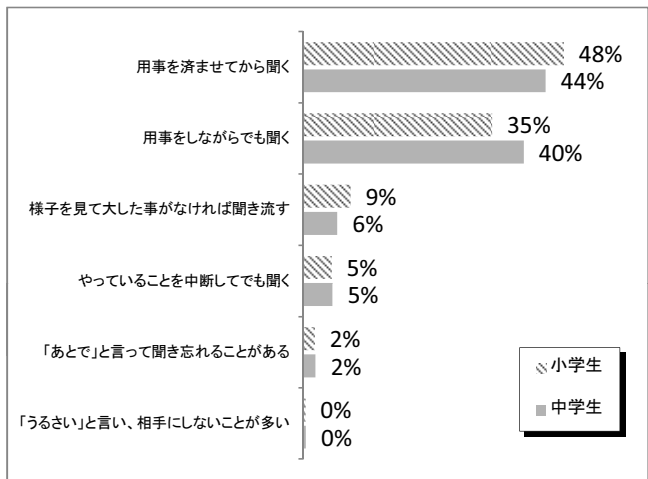
質問10 あなたが忙しいときお子さんが話しかけてきました。あなたはどのようにしていますか？

(単位:人)

	全体	小学生	中学生
用事を済ませてから聞く	238	138	100
用事をしながらでも聞く	191	100	91
様子を見て大した事がなければ聞き流す	39	25	14
やっていることを中断してでも聞く	27	15	12
「あとで」と言って聞き忘れることがある	11	6	5
「うるさい」と言い、相手にしないことが多い	2	1	1
その他	6	4	2

傾向と考案

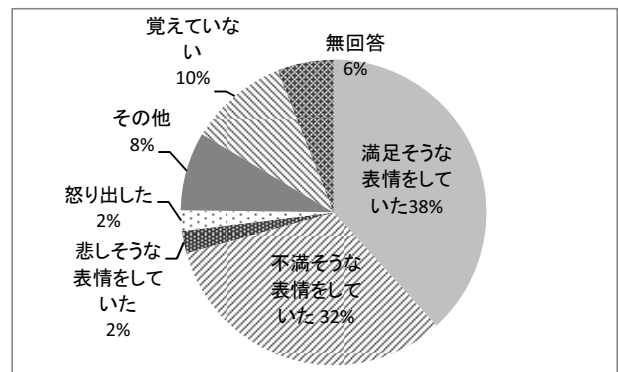
子どもの話を、工夫し、時に努力して聞いてあげている親の姿が見られます。こうした中に親の責任と愛情が感じられます。



質問11 その時話しかけてきた子どもの表情は、あなたの態度でどう変わりましたか？

(単位:人)

満足そうな表情をしていた	179
不満そうな表情をしていた	152
悲しそうな表情をしていた	11
怒り出した	10
その他	39
覚えていない	49
無回答	28
合計	468



その他の内容

- ・納得はしていないが早く聞いて欲しそうに待っている
- ・気にせず話し続ける(前問で「用事を済ませてから」と回答)
- ・本人と反対意見の時は腑に落ちない顔をしているが、それ以上反論しようとしていない
- ・真剣に話してくれた
- ・満足とまではいなくても話を聞いてあげた後は明るくなるのがほとんどである
- ・満足とまではいなくても自分なりに納得したのかな、という表情はしている。

傾向と考案

親子の会話は、互いに顔を見て、態度を見て、時に真剣になされていると思われます。心を通わす会話で、信頼と笑顔の家族でありたいものです。

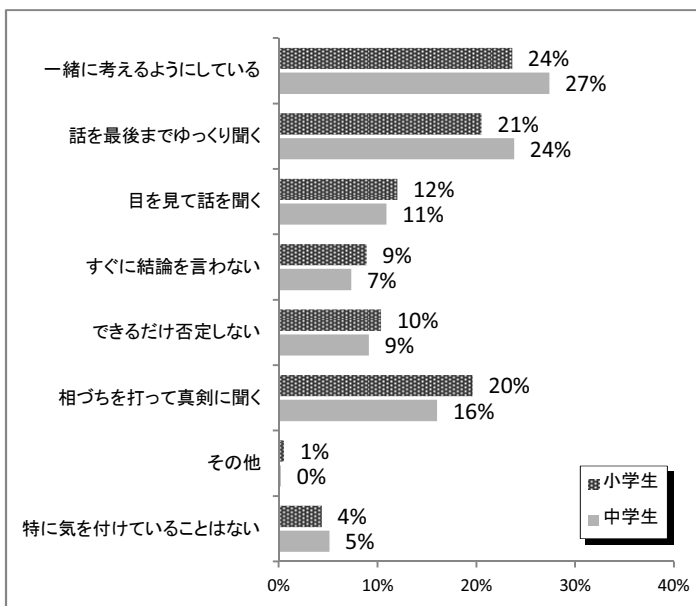
質問12 お子さんの話を聞くとときに気をつけていることを教えてください(複数回答)

(単位:人)

	全体	小学生	中学生
一緒に考えるようにしている	253	130	123
話を最後までじっくり聞く	220	113	107
目を見て話を聞く	115	66	49
すぐに結論を言わない	82	49	33
できるだけ否定しない	98	57	41
相づちを打って真剣に聞く	180	108	72
その他	4	3	1
特に気を付けていることはない	47	24	23

傾向と考案

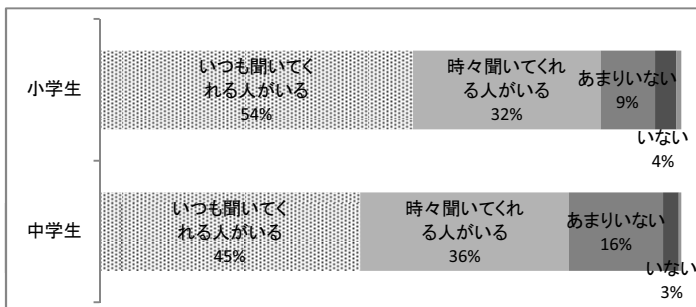
親として「一緒に考えるようにしている」が過半数を超える傾向にあり、真剣に向き合う保護者の姿勢が伺えます。また、小学生の保護者は「相づちを打つ」「目を見る」「できるだけ否定しない」など、話を聞く姿勢に、子どもに寄り添う姿が感じられます。



質問13-1 あなたの子育てについて、よく話を聞いてくれる人はいますか？

(単位:人)

	全体	小学生	中学生
いつも聞いてくれる人がいる	232	132	100
時々聞いてくれる人がいる	159	79	80
あまりいない	59	23	36
いない	15	9	6
無回答	3	2	1
合計	468	245	223



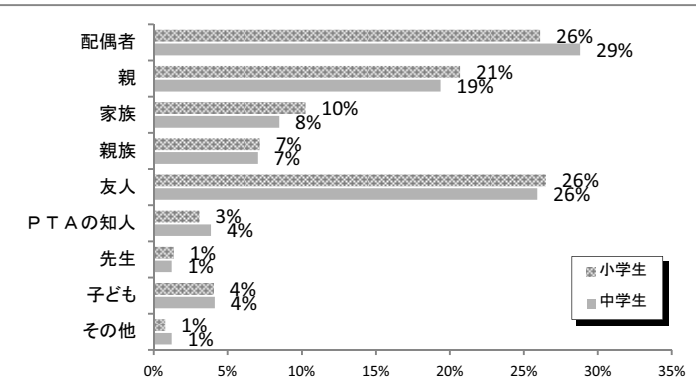
傾向と考案

小学生の保護者で14%、中学生の保護者で19%が「あまりいない」「いない」と答えています。子育てに関わる相談相手は、親であったり、同じ学校の保護者であったり、近所の方・・・など、兄弟姉妹が少なく子育て経験に乏しい中、相談相手が多種多様であることが安心の子育てを支えることと思います。少子化の中で、子育てに関わるより経験的な情報を、より良く得ることのできる環境作りが大切になると思います。

質問13-2 上記の質問で①②と答えた方にお聞きします。話を聞いてくれる方はどなたですか？

(単位:人)

	全体	小学生	中学生
配偶者	254	135	119
親	187	107	80
家族	88	53	35
親族	66	37	29
友人	244	137	107
PTAの知人	32	16	16
先生	12	7	5
子ども	38	21	17
その他	9	4	5



傾向と考案

子育ては、どの保護者にとっても初めての経験です。誰もが相談しながら、助けをもらいながら、わが子を、「地域ぐるみで心豊かなみやぎの子」に成長させる楽しみがあるように思います。どの子どもも幸せになれるよう育てて行ける、語り合い、支え合う、より良い子育て環境を作り上げていきたいものです。

質問14 あなたは、どんな人に話を聞いてほしいですか。

(単位:人)

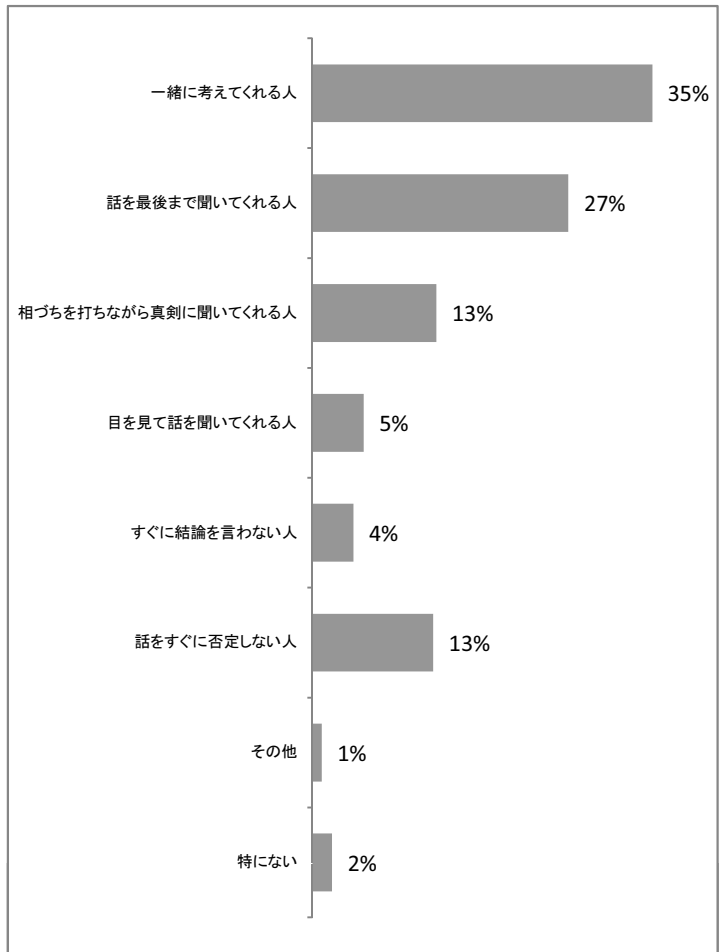
一緒に考えてくれる人	332
話を最後まで聞いてくれる人	250
相づちを打ちながら真剣に聞いてくれる人	121
目を見て話を聞いてくれる人	50
すぐに結論を言わない人	40
話をすぐに否定しない人	118
その他	9
特にない	19

その他の内容

- ・自分の体験等を話してくれる人
- ・他言しない人
- ・同じ考えを持っている人
- ・アドバイスしてくれる人
- ・自分の話に結び付けようとしない人
- ・意見を言ってくれる人
- ・良い悪いをきちんと話してくれる人
- ・自分の体験等を話してくれる人意見をしっかりと持っている人

傾向と考案

子どもへの同様の質問では、「話を最後まで聞いてくれる人」が第1位でした。保護者として、話を聞いてほしい人の第1位は「一緒に考えてくれる人」で70%を超えています。ともに考えてくれる子育て仲間としてPTAの活動や研修会のあり方も考えていきたいものです。



質問15 あなたの家族で「いじめ」についてどれくらい話し合いますか？

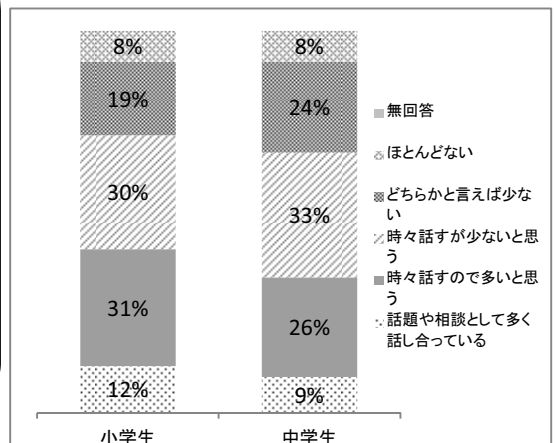
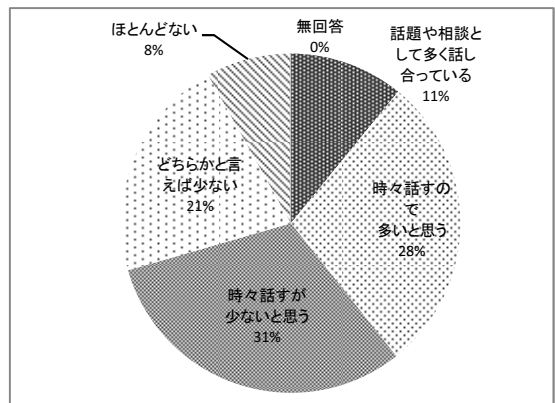
(単位:人)

	全体	小学生	中学生
話題や相談として多く話し合っている	51	30	21
時々話すので多いと思う	133	75	58
時々話すが少ないと思う	146	73	73
どちらかと言えば少ない	100	47	53
ほとんどない	38	20	18
無回答	0	0	0
合計	468	245	223

傾向と考案

親子の会話の中で、「いじめ」について、小学生で51%、中学生で35%の家庭で話し合いや相談などされています。十分なのか、不十分なのかは意見があるところですが、社会が大きな問題として捉えている割には、意外と無関心な家族も多いように思われます。いじめの発生要素の中に「無関心」が指摘されているところでもあります。

親子の会話の中から子どもの心の変化を敏感に捉えることでいじめの芽を早い段階で見つけることができます。普段から話し易い環境を作り、いじめをしない、させない子どもを育成することがいじめ問題に対する最も効果的な対策といえるでしょう。



IV 調査結果（自由記述）

児童生徒（小学校）

- ・家族のために一生懸命働いてくれているから不満は特にない。
- ・もっともっとたくさん話がしたいです
- ・こっちが水をのみたのみにテーブルに出しっぱなしの時間がある。テレビのつけっぱなし。ぼくにからんでくること（とくに父）。けど、そのほかには、なやんでいることはぜんぜんないよ。
- ・すぐ否定しないで話を聞いてほしい
- ・自分の悪いところとかの話はあまりしてほしくない
- ・時々、聞いていないのかなあ、という時間があるので最後まで聞いてほしいと思う。
- ・あまりお父さんと話せないので話す時間を増やしたい。
- ・お父さん、と言ってもむしをする。2回目で気付いてくれた。
- ・お父さんのへやだっってちらかっている時、いもうとのぶんまでやれと言う。
- ・おこられるてるときに、ぼくばかり言われること。
- ・お父さんがすぐおこるし、せいかくが悪すぎる。親なのにかめんライダーとかウルトラマンとかいつも見てる。ばんごはんは肉ばかり食べたがる。家をたてたからお父さんが一番えらいと言って高いコレクションをようきゅうする。つうしんぼも初めに見たがって見れないとおこるのでいやだ。父親だからと言って悪口をいっぱい言う。そもそもふだんから口が悪い。
- ・自分（回答者本人）には関係ないことだよといていた（あねには言っていた）
- ・ねると（ひるね）相手をしてくれないこと
- ・よく友達のかんけいをきかれる。
- ・自分は真剣に話しているのに相手は適当に「こうすればいいんじゃないの？」と言ってくる事が悩んでいます。

児童生徒（中学生）

- ・話をきいてくれるのですごくうれしいです。
- ・言いたいときに言ってるし、聞いてくれるから大丈夫だと思う。
- ・特にないです。父や母と話すのは面白いので希望や悩みはないです。
- ・悩んでいることはありません。
- ・勉強や部活がとても忙しいです。休日にもあまり会話がありません。
- ・姉の話だけではなく自分の話を聞いて欲しい。
- ・素っ気なく返事しても怒らないでほしい。思春期ですから・・・

- ・お父さんが単身赴任しているのでいつも家にいないので、お父さんとはあまり会話できないし、1カ月に1回ぐらいしか会えません。家族は一緒に暮らすべきだし、離れて生活するのはとてもさみしいです。
- ・あまり怒らないでほしい。もっと言いたくないこともあるから。あまり深く聞いてこないでほしい。察してほしい。分かっているふりをしないでほしい。
- ・話をすぐに否定しないでほしい。何度も同じことを聞かないでほしい、と思う。
- ・お母さんと話していると途中で結論を言われてイライラします。もっとちゃんと話を最後まできいて、私の意見も聞いてほしいです。
- ・しんろについて前話したけど、第一しぼう校よりも第二しぼう校のほうが将来的にも便利だが、第一しぼう校のほうが部活もたのしいし、制服もイイから、私は第一しぼう校に入りたい。でも親は第二しぼう校をすすめているから、とても迷っている。
- ・適当に話を流されて、何回か言わないと分かってくれない。また、同じ話を何回も言われ、反応に困る上、何回か話していることを指摘すると不機嫌になったり、冷たくなったりする。また、どうでもいい話は延々とするくせに、こっちは話は全然聞かない。
- ・親がなまっていて自分にもうつってしまう。
- ・(母が) 話が長い。時計を見ると不満そうにする。
- ・どうせ変わんないんでいいです。

保護者（小学校）

- ・短時間でもなるべく会話をするように心がけてます。全て完璧にいきませんが、子どもと話す時間は必要と思ってます。
- ・会話というより怒ったり指示をしている事が多い気がする。
- ・テレビや新聞、身近な出来事の中で難しい質問をされる時がある。子どもの理解できる言葉に置き換えて説明するのが大変です。
- ・自分の話を聞いてほしくて親の話を聞いていない事が多い。私も忙しくしているので、ゆっくり丁寧に会話をしていくよう心掛けたい。
- ・話好きで色々と話してくれますが、なかなか内容がまとまらず言いたい事が分からない事が多々あります。そんな時は「もう分かった!!」と言って終わらせてしまう事がありません。
- ・私も「会話」というよりは「説教」になってるような気がする。一方通行。もう少し「会話」を心がけなきゃダメですね。
- ・本人がまだ話の流れが出来てない状態で話を進めるので、意味がわからなくて何回も聞いてしまう。もう少し話し方が上手にならないかと思うところです。
- ・年上の人に対する言葉遣いに気をつけるようにしなさいと言っているが、なかなかよくなりません。ときどき、ため口になってしまいます。これから少しずつ良くなってくれれば・・・と思います。
- ・子どもと話す時間があまりもてない。
- ・男の子だからか悩んでいることがあってもなかなか自分からは相談してくれず、私も悩みがあっても気付くのが遅くなってしまい、不安な気持ちが続いている事が多いのではと思っています。小さな事でも気にしている事があれば相談してもらいたいです。うまく聞き出すことができないのでどうすればよいか困っています。
- ・どこまでが本心で話をしているのか分からない事がある。
- ・こちらの考えをどこまで押し付けたり教えたりしたら良いのか。
- ・子どもが自分の思い通りにいかないと乱暴な言葉づかいになるところ。
- ・特に気を付けてはいないが、態度が悪い時が多くなってきた。（腕を組んで話をしたり、返事が「はい」と言わなかったり、ちょっとした仕草が気になってきた）その時は注意していきますが、思春期か反抗期なのかわからない時があります。
- ・機嫌（子ども）が悪い時に話かけると「は？」とバカにしたように言ってくる。聞こえてるくせに・・・。
- ・悩みというほどではないが、学校や友人との生活、やりとりが分からない時はどこまで信用してよいか？と思うことがある。（我が子に限ってではないと思うが、子どもは自分都合のよいように理解したり話したりすることがあるため）

保護者（中学校）

- ・朝の見送り、帰って来た時の「お帰り」はするよう（言うよう）心がけています。まだ幼いところがあって自分が面白くなかったこと等私（母親）には話してくれるので、できるだけ聞くようにしています。
- ・悩みがあるとき聞き取れる状況を作っている所以悩みはありません。
- ・小さな頃から気持ちの優しい子で周囲に対して気配りをしている事が多い。母も仕事で夜間不在の時もあり、さみしく不安な思いをさせているのではと思う。ただ、困ったことがあれば話してほしい、全力で助けるからと伝えている。親に心配をかけまいと嫌な出来事は話してくれず、他の人から聞こえる時もある。どんな事でも話してほしいと切に願いつつ、こどもの成長を感じております。
- ・特にありません。ただ、父親と時々かみ合わない時があり少し不満そうです。反抗的な感じではないので、あまり心配はしてません。（女子 母）
- ・一緒に過ごす時間が震災後は本当に減ったので、私も娘も多分不本意に思っています。家庭にいる僅かな時間のほとんど家事をして過ごす私の側に来て一方的にしゃべることが多いように思いますが、それでもこれが今の貴重な親子の時間だと噛みしめています。私自身に心の余裕がなく、十分に聞いてやれないことに罪悪感を持っています。
- ・親の意見は正しいだろうという前提で意見を聞きたがっている様子の時は慎重に答えたと思うが、間違っているのではないかと後から思い返しても自尊心のようなものが邪魔をして、そのままにしてしまう時がある。人間関係の問題では我が子寄りの考えにならないように平等に考えるようにしているが、相手を擁護する意見を言った時に「親が味方になってくれなかった」と傷ついているのではないかと心配もある。
- ・交替勤務をしていると、平日の会話をする時間が少ないのが気になっています。
- ・表現が苦手な子なので、会話だけでなく表情等においても私が気付いてあげていない面が多々あると思います。大人として家族の中では考えているが、本人には重荷になっているのではないかと、少し心配だ。
- ・子どもの興味があるゲームなどの話が分からなくてつらい。子どもが一番好きな事などの話が分かってあげられれば子どもも喜んでくれるのに、と思うけどやっぱり分からない・・・。ついていけない自分が悲しいです。そうしたらもっと分かってあげることも、コミュニケーションもとれるのに・・・。
- ・一緒にいる時間が少ないので会話というのがあまりないのが悩みです。
- ・子どもが部活動に忙しく話をする時間もとれません。話をしたとしても、それを実行したり共に行う時間を保証できません。思春期の大事な時期を家族としてしっかり関わりたいのに、そうできないのが残念です。（子どもは勉強もしなければならず本当に忙しそうです）
- ・私の話が長すぎて子どもに呆れられる。言葉がきたない（自分）。

- ・直した方が良いところを伝えるとき、相手の態度でこちらも感情的になり、どんどん詰りな話し方になってしまい落ち込ませてしまう。励ましたいの逆効果になり、子どもが自分に自信が持てなくなっているのではと感じている。
- ・まだ中学生、でも、友達や先生の事で悩んでいても、親となった立場では上手に我慢する事を言ってしまいます。本人の本当のつらさに対して、上手に対処出来ていない。子どもの求めている会話をしつつ、しっかり成長してもらえたら安心です。
- ・私を安心させるために良い話が多いので、困っている事等を話してほしいです。
- ・今までは友達の話もいろいろしてくれていたのですが、この頃男の子の友達も増えてきたので、これから話してくれなくなるのではないかと心配です。(女子 母)
- ・普段の学校生活の事はこちらから聞かない限り話さないの、もう少し自分の事、周りの事を話してほしいです。本当はいろいろ聞きたいのですが、根掘り葉掘り聞けない自分がいます。
- ・親に黙っている事もあると思う。(特に部活や学校生活のこと、将来の事、高校受験や勉強について)
- ・思春期の為かすぐ怒ったりイライラしたりする。
- ・早口の上、言葉を略して話すのでギャップがあるのか、意味不明の時がある。いちいち言葉の意味を聞きながらの会話になるので、子どもが面倒くさがる。
- ・略語が多く分からない事がある。
- ・言葉の意味や解釈の仕方が理解できなく、会話にならない事がある。(男子 母)
- ・会話の内容が、子どもがまともに話していると思っていると途中で全然違う話になり、また内容が変わったねと言いつつ新たな会話をしたり、もとに戻って会話したり、と楽しい時間と苦痛な時間の半々で日々過ごしています。
- ・自分がいつも優先であり、間違っていないと思ってる所。
- ・相手の事を思いやる事が感じられないところ。
- ・すぐマイナス思考になり落ち込んだりする。
- ・とにかく反抗期でイライラしていて、スマホ、ゲームを没収すると強い勢いで反抗する時がある。どう接していいかわからない時がある。
- ・すぐに怒る。
- ・話す前にすでに怒っているので、聞かないとさらにヒートアップする。
- ・いじめの度合いが難しいなあと思います。やってる方はふざけ半分なのですが、される方はいやですよ。我が子に「いじめられてる？」の質問に「いや、ない」と言うので、自分で感じるいじめはされてないのかなと今のところ思っています。
- ・担任の先生が子どもの気持ちを理解してくれない、と常々愚痴をこぼしている事。

まとめ・・・「新しい時代を拓く心を育てるために」・・・親子の会話・・・

今回の調査は宮城の家庭での親子の会話の現状を調査して、何らかの課題や提言ができないか集計・考察していくものです。愛する子ども達が10年後、20年後の復興した宮城の新しい時代を拓く、その心を育てるために、地域を支える人材に成長させるために、「親子の会話の在り方」が「いじめゼロ宣言」などPTA活動の一助となって啓蒙されていくことが大切であると考えます。

これまでも子どもの成長にとって親子の会話こそが大切であるという規範や理想に基づき、親子の会話の不足が強調されてきました。

先行調査を参考にすると、1970年代以降、親は子とよく話し合い子どもを理解することが大切であると考えられるようになる中、親子の会話不足が問題になりました。そうした考えが浸透するとともに、2000年代には親子関係の希薄や会話の不足ではなく、逆にその多さが問題となり、「居心地のいい家庭」「優しく理解があり、よく話す、ぶつからない親子関係」「友だち親子」などから反抗期・思春期の変容、自立の遅れが見られるとも言われてきました。

現代の親子関係については、友だちのようによく話す親子というイメージと、コミュニケーションが不足していて稀薄な関係という両方のイメージがあるように思われます。

では、実のところどうなのか。今回のアンケート調査結果から「宮城の親子の今」を見ていきたいと思えます。

小学5年生の児童にとっては両親に依存した生活から独立していく過程で友人との生活の占める割合が大きいくだけに、親は家庭内の話題として積極的に取り上げ、適切な助言を与えることが必要とされます。質問4～10「会話の時間」「会話の内容」「会話のやり取り」は十分に確保され、内容も多岐にわたり子どもとの和やかな会話を楽しみ、また、真剣な相談もなされているようです。将来の生活についての親子の会話は、子どもの人生における生活目標の設定などのために極めて重要な意義を有するはずですが、その会話の質問5（保護者）で27%(P13.参照)とやや少ないように思われます。一方、子どもは悩み事や心配事の相談相手については確かに友だちが圧倒的に多いですが、今回の調査では16%の子どもが親に相談しています(P5.参照)。

今回の調査によれば、親子の会話の頻度について、「よく話し合う」「ほとんど話さない」と二極化はあるものの全体的には会話の時間も十分で内容も充実しています。宮城のお父さん・お母さんは子どもの状況をよく把握して会話しているといえるのではないのでしょうか。小学校から中学校へ子どもが成長するにつれて、親子の会話の頻度がやや少なくなる傾向も成長の過程と見ることができます。

親子の会話には頻度や量に対して、これからはその質が問われています。これからの宮城の親子のあるべき姿に「会話の量と質の充実」を求めていきたいものです。

提言・・・『親子ディスカッションの日』を・・・ルールを決めて・・・
～親子の会話を楽しみ、互いに学び愛、人の輪を広げよう～

VI

資料編

児童生徒の皆さんへ

質問 1-1 あなたの事についてお聞きします。(性別と学年)

- ①小学5年・男 ②小学5年・女 ③中学2年・男 ④中学2年・女

質問 1-2 あなたと一緒に住んでいる人すべてに○をつけてください。

- ①父 ②母 ③祖父母 ④兄弟姉妹 ⑤その他(叔父・叔母含む)

質問 2 あなたの家族では「おはよう」「ただいま」「おやすみなさい」などのあいさつをしますか。

- ①よくする ②時々する ③あまりしない ④しない ⑤その他

質問 3-1 平日に、家族と一緒に過ごす時間はどのくらいですか？

- ①ほとんどない ②1時間未満 ③2時間未満 ④3時間未満 ⑤3時間以上

質問 3-2 休日に、家族と一緒に過ごす時間はどのくらいですか？

- ①ほとんどない ②1時間未満 ③2時間未満 ④3時間未満 ⑤3時間以上

質問 4-1 平日に、家族(お父さん・お母さん)と会話する時間はどのくらい？

- ①ほとんどない ②1時間未満 ③2時間未満 ④3時間未満 ⑤3時間以上

質問 4-2 休日に、家族(お父さん・お母さん)と会話する時間はどのくらい？

- ①ほとんどない ②1時間未満 ③2時間未満 ④3時間未満 ⑤3時間以上

質問 5 あなたが、お父さん・お母さんなど家族の人とよく話す話題は、どんなことですか？(あてはまるものすべてに○)

- ①勉強・学校の話 ②友達の話 ③テレビや本の話 ④塾・習い事の話 ⑤趣味の話
⑥親の話(仕事や昔話) ⑦家族の話 ⑧将来の話 ⑨悩み事や心配事 ⑩その他()

質問 6 あなたは、お父さん・お母さんなど家族の人とお話しをする時間は、楽しいですか？

- ①とても楽しい ②わりと楽しい ③あまり楽しくない ④まったく楽しくない ⑤わからない

質問 7 あなたの家族は、みんなよく会話しますか？

- ①よく会話する ②わりとしている ③あまりしない ④ほとんどしない

質問 8 学校の出来事をお父さんお母さん家族の人から聞かれますか？

- ①よく聞かれる ②時々聞かれる ③あまり聞かれない ④ほとんど聞かれない

質問 9 家族の思い出で一番心にのこっていることはどんなことですか？(あてはまるものすべてに○)

- ①ほめられたこと ②怒られたこと ③普段の生活の出来事(食事など) ④一人前と認められたこと
⑤旅行や誕生日など家族のイベント ⑥正月やお祭りなど季節の行事 ⑦その他()
⑧特に思い出はない

質問 10 いつも、あなたのお父さんやお母さんは、あなたの話を聞いてくれますか？

- ①よく聞いてくれる ②どちらかと言えば聞いてくれる ③どちらかと言えば聞いてくれない ④ほとんど聞いてくれない

裏面の質問にも答えてください⇒

質問 11 話をよく聞いてもらったと思うときはどんなときですか？ (あてはまるものすべてに○)

- ①目を見て話を聞いてくれたとき ②一緒に考え悩んでくれたとき ③話を最後までゆっくり聞いてくれたとき
④話しをすぐに否定しないとき ⑤うなずきながら真剣に聞いてくれたとき ⑥その他 () ⑦特にない

質問 12 あなたが忙しそうにしている家族に話しかけたとき、家族の人は話を聞いてくれましたか？

- ①やっていることを中断して聞いてくれた。 ②「ちょっと待って」などと言い、用事をすませた後で聞いてくれた。
③用事をしながらでも真剣に話を聞いてくれた。 ④あまり真剣でなかったので適当に話した。
⑤「あとで」といわれ、話さないままになった ⑥「うるさい」などといわれ、まったく相手にされなかった。
⑦その他 ()

質問 13 その時あなたの気持ちはどうでしたか？

- ①うれしかった ②不満が残った ③悲しかった ④むかついた、怒った
⑤その他 () ⑥覚えていない

質問 14-1 あなたにはお父さんお母さん以外によく話を聞いてくれる大人がいますか？

- ①いつも聞いてくれる人がいる ②時々聞いてくれる人がいる ③あまりいない ④いない

質問 14-2 上記の質問で①②と答えた方にお聞きします。話を聞いてくれる方はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

- ①先生 ②祖父母 ③地域の人 ④その他 ()

質問 15 あなたは、どんな人に話を聞いてほしいですか。(あてはまるものすべて○)

- ①一緒に考えてくれる人 ②話を最後まで聞いてくれる人 ③あいづちを打ちながら真剣に聞いてくれる人
④目を見て話を聞いてくれる人 ⑤すぐに結論を言わない人 ⑥話をすぐに否定しない人
⑦その他 () ⑧特にない

質問 16 あなたの家族で「いじめ」についてどれくらい話し合いますか。

- ①話題や相談として、多く話し合っている ②時々話すので、多いと思う ③時々話す、少ないと思う
④どちらかと言えば少ない ⑤ほとんどない

最後に、お父さん・お母さんや家族との会話で希望や悩んでいることがあれば自由に書いてください。

(※誤字の訂正のほかは、ほぼ原文のとおり記載させていただきます)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

保護者の方へ

質問 1-1 あなたのお子さんの事についてお聞きします。

- ①小学5年・男 ②小学5年・女 ③中学2年・男 ④中学2年・女

質問 1-2 あなたとお子さんとの関係についてお聞きます。

- ①父 ②母 ③祖父 ④祖母 ⑤その他

質問 2 あなたの家族では「おはよう」「ただいま」「おやすみなさい」などのあいさつをしますか。

- ①よくする ②時々する ③あまりしない ④しない ⑤その他

質問 3-1 平日にお子さんと一緒に過ごされているときの平均的な時間をお聞かせください。

- ①ほとんどない ②1時間未満 ③2時間未満 ④3時間未満 ⑤3時間以上

質問 3-2 休日にお子さんと一緒に過ごされているときの平均的な時間をお聞かせください。

- ①ほとんどない ②1時間未満 ③2時間未満 ④3時間未満 ⑤3時間以上

質問 4-1 平日のお子さんとの会話についてお聞きします。一日どの位話しますか？

- ①ほとんどない ②1時間未満 ③2時間未満 ④3時間未満 ⑤3時間以上

質問 4-2 休日のお子さんとの会話についてお聞きします。一日どの位話しますか？

- ①ほとんどない ②1時間未満 ③2時間未満 ④3時間未満 ⑤3時間以上

質問 5 お子さんがあなたと話す話題は、どんなことですか？（複数回答可）

- ①勉強・学校の話 ②友達の話 ③テレビや本の話 ④塾・習い事の話
⑤趣味の話 ⑥親の話（仕事や昔話） ⑦家族の話 ⑧将来の話
⑨悩み事や心配事 ⑩その他（ ）

質問 6 お子さんと話しをする時間は、楽しいですか？

- ①とても楽しい ②割と楽しい ③あまり楽しくない ④全く楽しくない ⑤わからない

質問 7 お子さんから話しかけられる機会が多いと思いますか？

- ①多いと思う ②多いとも少ないとも思わない ③どちらかと言えば少ない ④ほとんどない

質問 8 あなたから進んでお子さんの話を聞いていますか？

- ①よく聞いている ②時々聞いている ③あまり聞いていない ④ほとんど聞いていない

質問 9 お子さんは「あなたに話をしっかり聞いてもらっている」と思っている、と思いますか？

- ①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③どちらかと言えばそう思わない
④そう思わない

質問 10 あなたが忙しいときお子さんが話しかけてきました。あなたはどのようにしていますか？

- ①やっていることを中断してでも話を聞く
②「ちょっと待って」などと言い、用事をすませた後で聞くようにしている
③用事をしながらでも真剣に話を聞く ④様子を見て、たいした事がないと思える時は聞き流す
⑤「あとで」と言って、聞き忘れることがある
⑥「うるさい」などと言い、相手にしないことが多い ⑦その他（ ）

裏面の質問にも答えてください ⇒

質問 11 その時話しかけてきた子どもの表情は、あなたの態度でどう変わりましたか？

- ①満足そうな表情をしていた ②不満そうな表情をしていた ③悲しそうな表情をしていた
④怒り出した ⑤その他 () ⑥覚えていない

質問 12 お子さんの話を聞くときに気を付けていることを教えてください (複数回答可)

- ①一緒に考えるようにしている ②話を最後までゆっくり聞くようにしている
③目を見て話を聞くようにしている ④すぐに結論を言わないようにしている
⑤子どもの話をできるだけ否定しないようにしている
⑥できる限り相づちを打って真剣に聞くようにしている ⑦その他 ()
⑧特に気を付けていることはない

質問 13-1 あなたの子育てについて、よく話を聞いてくれる人はいますか？

- ①いつも聞いてくれる人がいる ②時々聞いてくれる人がいる
③あまりいない ④いない

質問 13-2 上記の質問で①②と答えた方にお聞きます。話を聞いてくれる方はどなたですか？ (複数回答可)

- ①配偶者 (夫・妻) ②親 ③家族 ④親族 ⑤友人 ⑥PTA の知人 ⑦先生
⑧子ども ⑨その他 ()

質問 14 あなたは、どんな人に話を聞いてほしいですか。 (複数回答可)

- ①一緒に考えてくれる人 ②話を最後まで聞いてくれる人
③相づちを打ちながら真剣に聞いてくれる人 ④目を見て話を聞いてくれる人
⑤すぐに結論を言わない人 ⑥話をすぐに否定しない人
⑦その他 () ⑧特にない

質問 15 あなたの家族で「いじめに」ついてどれくらい話し合いますか？

- ①話題や相談として、多く話し合っている ②時々話すので、多いと思う
③時々話すか、少ないと思う ④どちらかと言えば少ない
⑤ほとんどない

最後に、お子さんとの会話で悩んでいることがあればお書きください。

自由記述 (*誤字の訂正のほかは、ほぼ原文のとおり記載させていただきます)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

第9回単位PTA会長会 いじめゼロ宣言

私たちは、本日「いじめ問題とPTA」というテーマのもと「いじめ」について話し合い、多くの考えを共有することができました。

人間の尊厳を否定する いじめ は、決して許される行為ではありません。

私たち保護者は、愛してやまない子どもたちの命を守らなければなりません。

いじめをしない・させない子どもを育成し、いじめのない学校、いじめのない地域を目指すことを宣言し、次のことを決議いたします。

1. 私たちは 「命の尊さを理解する」子どもを育てます。

人間の命は最も尊いものであり、かけがえのない命であることを子どもたちに教えます。

1. 私たちは 「相手を認める心を持つ」子どもを育てます。

自分とは考え方や行動が違う人がいても、それを否定せず、個性と認めることの大切さを子どもたちに教えます。

1. 私たちは 「逃げない心を持つ」子どもを育てます。

助けを求める友だちから目を背けず、自らが救ってあげる勇気を持つ大切さを子どもたちに教えます。

1. 私たちは 「ともに生きていることを理解する」子どもを育てます。

人間は決して1人ではありません。支えあい助け合いながら、みんながともに生きていることを子どもたちに教えます。

平成25年7月6日

宮城県PTA連合会
第9回単位PTA会長会

あとがき

平成25年度健全育成委員会の実態調査のテーマ選定にあたり、今年7月に開催された単位PTA会長研修会での「いじめゼロ宣言」に対して、当委員会ではどんな取り組みをすべきかを協議しました。

これまでに、「いじめ」をテーマにしたアンケートや実態調査は数多く行われていると思います。

そのため、PTAとしての切り口は何か、いじめから大切な子どもを守るために保護者として何に配慮しなくてはならないのか、家庭でできるいじめゼロに向けた取り組みは何か、というところで協議を重ね、話し合いの末、まず家庭で子どもと会話し、話を聞いてあげることがその子の今を知り、いじめを見つけ、無くすことのためには重要ではないのか、ということから「親子の会話（コミュニケーション）」に焦点を絞ることに決定しました。

まずは、宮城の家庭における親子の会話時間、会話内容、会話の環境等について調査を行い、現状を知ることになりました。

調査結果の中で、「いじめ」についての話し合いは約80%の子ども達が少ないと答えています。また、保護者では、小学生で51%、中学生で35%が家庭で話し合いや相談などされていると回答がありました。親子の会話の頻度について全体的には会話の時間も充分で内容も充実していると言える一方、「いじめ」については「うちの子に限っては大丈夫」、「いじめは他人事」と捉えている保護者の方がまだ多いことをうかがわせます。

現代のいじめは、携帯電話やスマートフォンなどのインターネットツールの普及により、方法や手段が複雑化し、執拗かつ陰湿化して、誰でもがいじめの対象となる性質に変容しています。

今後なお一層「いじめ」を自分の問題と捉え、家庭における「親子の会話」の量と質を充実させながら「いじめゼロ」に向けて取り組んでいただければ、この調査報告書が一助となれば幸いと存じます。

末筆になりましたが、この度の調査に御協力頂きました小学5年生、中学2年生、そして保護者の皆様、アンケートの配布・回収に御尽力頂いた各地区の理事の皆様ならびに先生方、その他御協力頂いたすべての方々に改めて心から感謝申し上げます。

宮城県PTA連合会 健全育成委員会
委員長 三浦 修

話そうよ 何でもいいから話そうよ 心の声が聞こえるよ

(栗原市立瀬峰小学校4年 涌泉優花)

ー 平成25年度三行詩コンクール健全育成委員長賞受賞作品 ー

発行 : 宮城県PTA連合会

責任者 会長 佐々木 賢司

〒983-0836 仙台市宮城野区幸町四丁目 5-1
宮城県青年会館内

電話 022 (295) 9581・9590

FAX 022 (256) 0425

E-mail miyagi-pta@h4.dion.ne.jp

URL <http://www.miyagi-pta.gr.jp/>

企画,編集 : 宮城県PTA連合会 健全育成委員会

委員長 : 三浦 修 (栗原)

副委員長 : 我妻稔明 (宮城) 吉田義晴 (気仙沼)

委員 : 高橋聖也 (大崎) 佐々木浩子 (栗原)

成田壽広 (石巻) 大沼 貴 (蔵王)

齋藤一彦 (丸森)

担当副会長 : 渡邊千恵美 (亘理)

嶺岸 篤 (しらかし台中 校長)

担当事務局員 : 丹野妙子